栃木県埋蔵文化財調査報告第 367 集

薬師堂遺跡

－安全な道づくり事業費（補助）一般県道杉山石末線太田東工区に伴う発掘調査－

2014.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

薬師堂遺跡

－安全な道づくり事業費（補助）一般県道杉山石末線太田東工区に伴う発掘調査－

2014.3

栃木県教育委員会
公益財団法人 とちぎ未来づくり財団

序

薬師堂遺跡は、栃木県の中央部、塩谷郡高根沢町に位置しています。遺跡は東側の井沼川、西側の五行川に挟まれており、二つの河川の合流点を望む微高地上に立地しています。これらの河川が形成する肥沃な沖積地は生産力が高かったものと考えられます。周辺には古墳時代から古代中世にわたる大遺跡である砂部遺跡など多くの遺跡が確認されております。

このたび、一般県道杉山石末線太田東工区の建設に先立ち、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。その結果、中世の溝跡や、同時代のかわらけや内耳土器などが出土し、当時の生活の一端が確認されました。

本報告書は、その発掘調査成果をまとめたものであり、本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県県土整備部、高根沢町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

栃木県教育委員会

教育長　古 澤　利 通

例　言

1．本書は、栃木県塩谷郡高根沢町太田地内に所在する薬師堂遺跡の発掘調査報告書である。遺跡の概要については、年報等で一部公表されているが、本書をもって正報告とする。

2．発掘調査は、安全な道づくり事業費（補助）一般県道杉山石末線太田東工区に伴う記録保存調査である。

3．発掘調査は、栃木県県土整備部の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもとに、公益財団法人とちぎ未来づくり財団（平成21年度の発掘調査時には、財団法人とちぎ生涯学習文化財団）埋蔵文化財センターが実施した。

4．発掘調査から整理作業および報告書作成までの担当は次のとおりである。

【発掘調査】

平成21年10月8日～12月25日

財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター調査部

調査第二担当係長（担当リーダー）　芹澤清八　　係長　植木茂雄

調査第一担当　嘱託調査員　田村雅樹

【整理作業・報告書作成作業】

平成25年4月1日～平成26年3月27日

公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター調査課

調査担当　係長　植木茂雄

5．本書の執筆・編集は植木が担当し、副所長初山孝行が校閲した。

6．再委託のうち、重機による表土除去作業は株式会社手塚興業に委託した。また、基準点測量・基準杭の打設及び遺構平面図現地測量作業、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は株式会社ニッコーに委託した。

7．写真撮影は各年度担当（発掘調査における遺構：芹澤、植木、田村、遺物：市川）が行った。

8．発掘調査の実施ならびに報告書の作成にあたっては、次の機関からご指導、ご協力を賜った。

栃木県県土整備部、塩谷土木事務所、高根沢町教育委員会、高根沢町歴史民俗資料館、高橋清司、鈴木　勝、石橋知明（順不同）

9．発掘調査参加者は、次のとおりである。

池田　光江、宇塚　悦美、小川　征男、加藤　レイ子、見目　富、小島　利三、船山　英雄（五十音順）

10．整理作業・報告書作成作業参加者は、次のとおりである。

田村範子　　大谷小穂

12．本遺跡の出土遺物・資料類は、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターで保管している。

凡　例

1．遺跡の略号は、薬師堂遺跡：TN-YK（TAKANEZAWA-YAKUSHIDOU）である。

2．遺跡略号は、発掘調査時はS-〇〇の通し番号で管理していた。しかし、整理・報告書作成の段階で番号は基本的に同じとしたが、遺構の種類によって以下のように表記した。

　SE（井戸跡）、SD（溝跡）、SK（土坑）

3．遺構実測図の縮尺は、実測図中にスケールで示した。原則として、調査区の全体図、遺構の平面図及び断面図は1/60で表記した。

4．遺構平面図中の方位は、世界測地系（日本測地系2000・Japanese Geodetic Datum 2000）平面直角座標系第Ⅸ系に基づいている。断面中の水準は、東京湾平均海面からの標高である。

5．土層説明の記載は、発掘調査時の観察に準拠している。

混入物の含有量については、多量、多く、やや多く、やや少なく、少なく、少量、微量に、しまり及び粘性については、強い、やや強い、弱い、無いに分け記載した。

6．遺物実測図の縮尺は、実測図中にスケールで示した。原則として、かわらけ、陶器、砥石は1/3、内耳土器は1/4としている。

7．遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色研究所色票監査『新版　標準土色帳1996年版』を参考とした。

8．写真図版の遺物の縮尺は基本的に不統一である。

目　次

序

凡例

目次

挿図目次

表目次

図版目次

第１章　調査の経緯

　第１節　調査に至る経緯……1

　第２節　発掘調査の方法と経過……4

第２章　遺跡の環境

　第１節　地理的環境……5

　第２節　歴史的環境……7

第３章　薬師堂遺跡の発掘調査

　第１節　発掘調査の概要 ……11

　第２節　発見された遺構と遺物 ……11

第４章　調査の結果……32

挿 図 目 次

第１図　薬師堂遺跡位置図……1
第２図　遺跡の位置……2
第３図　試掘調査トレンチ図……3
第４図　遺跡の位置と地形図……6
第５図　周辺の遺跡……8
第６図　薬師堂遺跡発掘調査区……13・14
第７図　薬師堂遺跡発掘調査区全体図・調査Ⅱ区全体図……15・16
第８図　Ⅱ区　遺構配置図（1）……18
第９図　Ⅱ区　遺構配置図（2）……19
第10図　Ⅱ区　遺構実測図（1）SK-01～SK-14……20
第11図　Ⅱ区　遺構実測図（2）SK-15～SK-17……21
第12図　Ⅱ区　遺構実測図（3）SK-18～SK-26……22
第13図　Ⅱ区　遺構実測図（4）SK-27～SK-32・SD-34・SK-36……23
第14図　Ⅱ区　遺構実測図（5）SK-33・SD-39・SE-40……24
第15図　Ⅱ区　遺構実測図（6）SD-41・SE-42・SK-45……25
第16図　Ⅱ区　遺構実測図（7）SK-37・SE-43・SK-47・49・73……26
第17図　Ⅱ区　遺構実測図（8）SK-46・48・51～53・55・59……27
第18図　Ⅱ区　遺構実測図（9）SK-54・56・66～72……28
第19図　Ⅱ区　遺構実測図（10）SK-57・58・60～65……29
第20図　出土遺物実測図……30

表 目 次

第１表　周辺の遺跡一覧……9
第２表　出土遺物観察表……31

図 版 目 次

図版一　航空写真　　薬師堂遺跡航空写真（南東から）
図版二　航空写真　　薬師堂遺跡Ⅱ・Ⅲ区航空写真（南から）
　　薬師堂遺跡Ⅱ・Ⅲ区航空写真（真上から）
図版三　調査Ⅱ区・遺構（一）　SK-01　セクション（南から）
　　SK-02　セクション（南から）
　　SK-03　セクション（南から）
　　SK-05　セクション（南から）
　　SK-07　セクション（南から）

SK-01 ～ 07（南東から）
Ⅱ区作業風景　（西から）
Ⅱ区作業風景　（西から）
図版四　調査Ⅱ区・遺構（二）　SK-08　セクション　（南から）
SK-09　セクション　（南から）
SK-10　セクション　（南から）
SK-11・12　セクション　（南東から）
SK-13・14　セクション　（南東から）
SK-15　セクション（南東から）
SK-01・16　完掘　（西から）
SK-08～17　完掘　（南西から）
図版五　調査Ⅱ区・遺構（三）　SK-18・19・20　完掘　（南から）
SK-18・19・20　完掘　（南から）
SK-23　セクション　（南から）
SK-24　セクション　（南から）
SK-18～20　完掘　（東から）
SK-25・26　完掘（南から）
SK-23～27　SD-34　完掘　（南から）
SD-34・SK-27　完掘　（南から）
図版六　調査Ⅱ区・遺構（四）　SK-29～33、SD-34・35、SK-36～38、SD-39・40 完掘　（南から）
SK-28～33　完掘　（北西から）
SK-27～28・SD-34　完掘　（南から）
SK-27～28・SD-34　完掘　（南から）
SK-34　完掘　（南から）
SK-37　完掘　（南西から）
SD-39　完掘　（南から）
SD-39・SE-40　完掘　（南から）
図版七　調査Ⅱ区・遺構（五）　SD-39　作業風景　（西から）
SD-40　完掘　（西から）
SD-39　完掘　（西から）
SD-39　完掘　（東から）
SD-41・SE-42　セクション　（南から）
SD-41　遺物出土状況　（南から）
SE-42　完掘　（東から）
SD-41・SE-42　完掘　（東から）
図版八　調査Ⅱ区・遺構（六）　SE-43　セクション　（北東から）
SE-43・SK-47・50　完掘　（北から）
SK-45　完掘　（北東から）

SD-41・SE-42・SK-45　完掘　（南東から）
SK-46・48・55　完掘　（北から）
SK-46～52・55・73　完掘　（東から）
SK-49・73　セクション　（南西から）
SK-49・73　完掘　（北から）
図版九　調査Ⅱ区・遺構（七）　SK-51・52　完掘　（南東から）
SK-56　完掘　（西から）
SK-57・58　完掘　（東から）
SK-59　完掘　（南東から）
SK-60～62　完掘　（東から）
SK-63～65　完掘　（南から）
SK-53・54・67・68・69　完掘　（北西から）
SK-70・71　完掘　（南東から）
図版十　調査Ⅱ区・遺構（八）　SK-56～58・60・66・72　完掘　（西から）
Ⅰ区・Ⅱ区全景　（東から）
Ⅰ区　遺構確認状況　（西から）
Ⅰ区　遺構確認状況　（東から）
Ⅲ区　作業風景　（南西から）
Ⅲ区　遺構確認状況　（北東から）
Ⅱ区　測量風景　（西から）
航空写真撮影
図版十一　遺物（一）　Ⅱ区　SD-41 1
Ⅱ区　SD-41 2
Ⅱ区　SD-41 3
Ⅱ区　SD-41 4
Ⅱ区　SD-41 5
Ⅱ区　SD-41 6
図版十二　遺物（二）　Ⅱ区　T-3 7
Ⅱ区　T-3 8
Ⅱ区　SD-34 9
Ⅱ区　SD-34 10
Ⅱ区　SD-34 11
Ⅱ区　SD-34 12
Ⅱ区　SD-35
Ⅱ区　SD-34 14
図版十三　遺物（三）　Ⅱ区　SD-34 13
薬師堂遺跡周辺道路整備状況

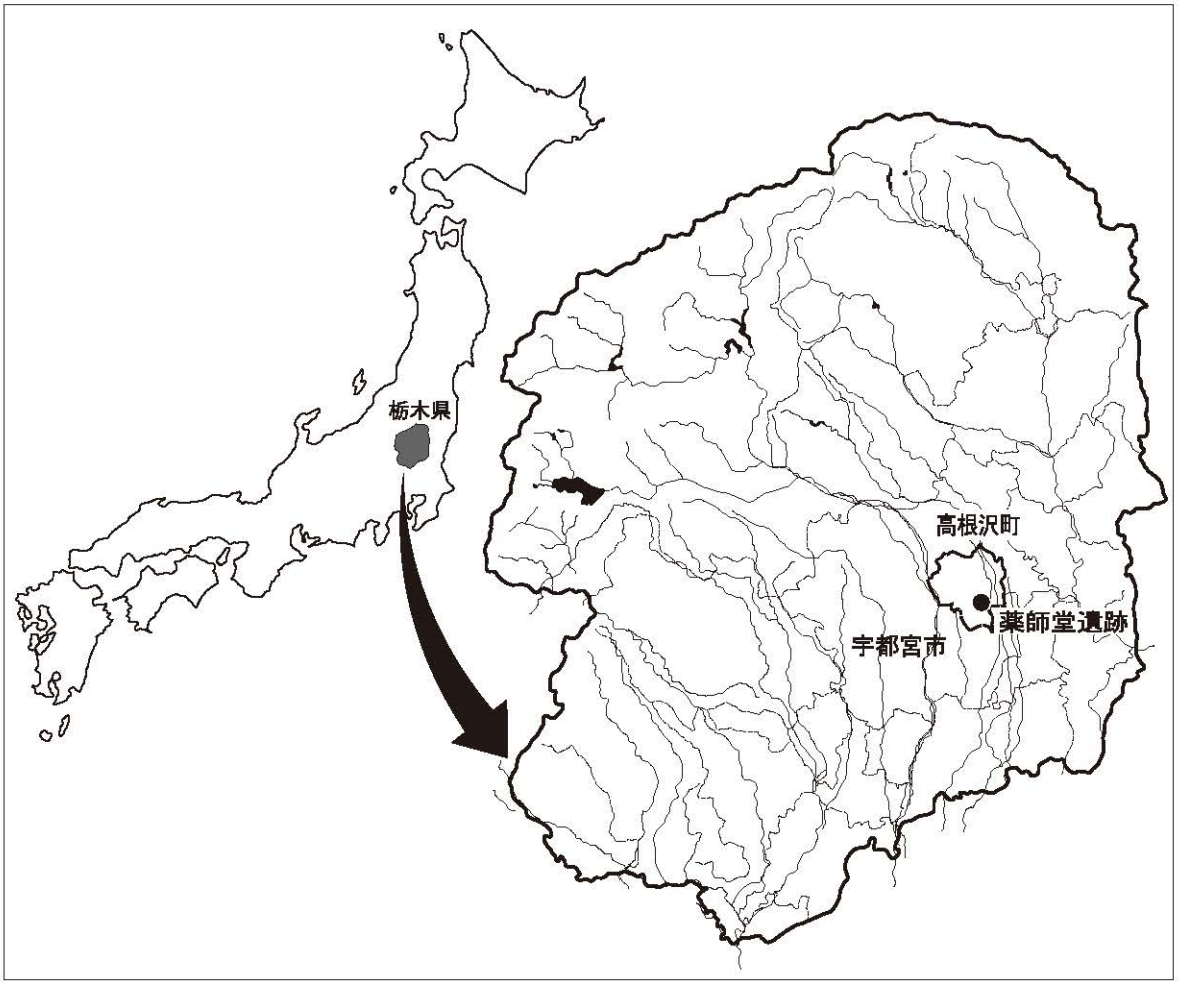
第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

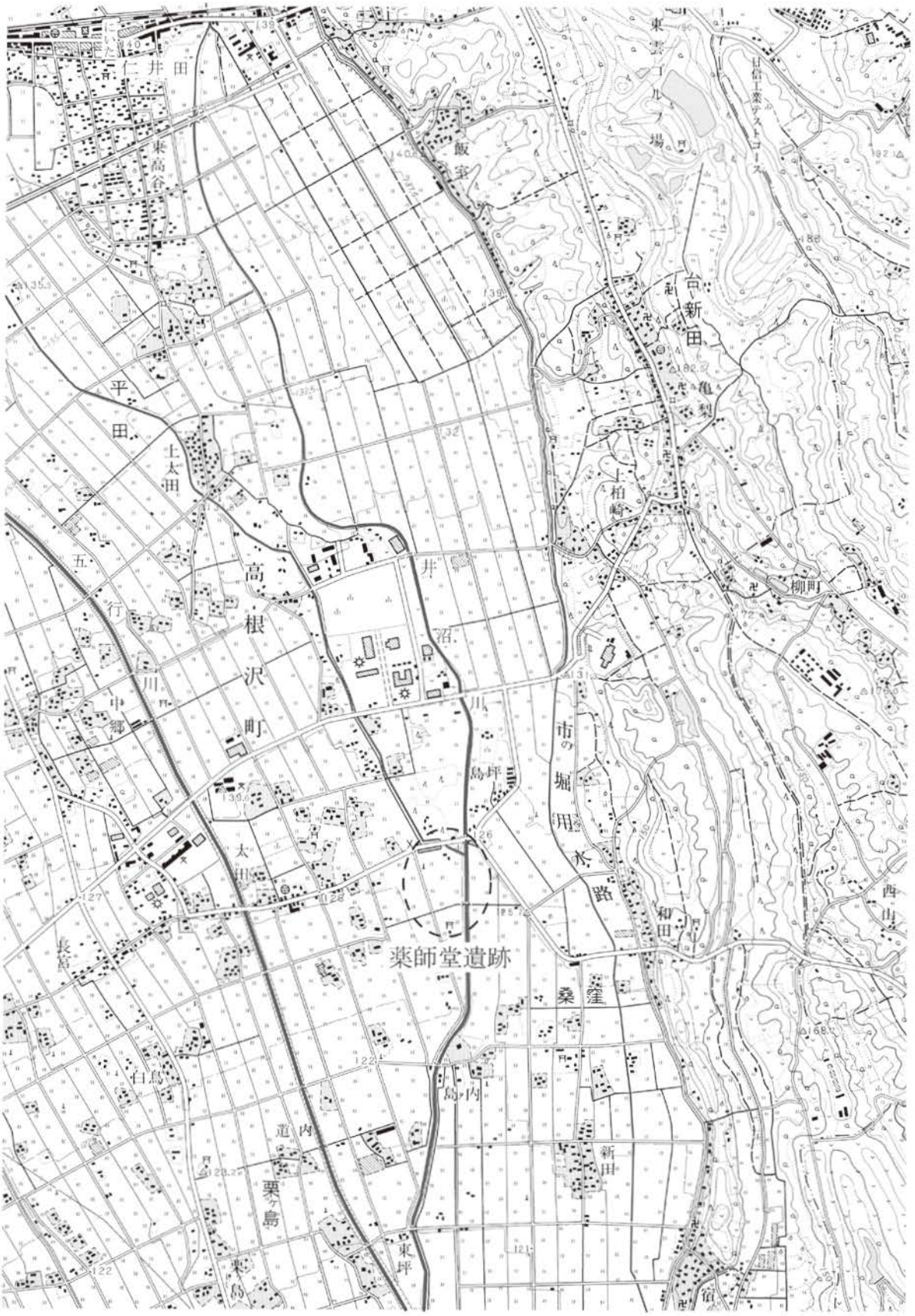
薬師堂遺跡の所在する高根沢町には、東京から青森を結ぶ陸上距離が日本一長い国道4号が、町の西側を南北に走っている。国道4号は、高根沢町の南西に位置する宇都宮方面から北東方向に進み、高根沢町宝積寺交差点で北に方向を変える。また、宝積寺交差点は、千葉県成田市を起点とし、真岡市を経由してきた国道408号の終点にあたる。この宝積寺交差点からは、主要地方道宇都宮那須烏山線（県道10号）が東に延びており、宇都宮、高根沢、那須烏山の市街地を結ぶ重要な道路である。

一般県道杉山石末線（県道176号）は、芳賀郡市貝町大字杉山を起点とし、北西に向かい、高根沢町中柏崎、下柏崎、太田などの北高根沢地区を経由し、高根沢町役場、ＪＲ宝積寺駅に向かう一般県道石末真岡線（県道156号）に合流する。総延長は14.573Kmで、終点は高根沢町大字石末である。

一般県道杉山石末線太田工区は、道幅が狭いうえに、歩道も併設されていない。小学校の通学路として利用されており、朝夕の通勤時間帯には多くの車が利用し、大型車の通行も多いことから、幅員を拡幅し、歩道を整備することにより、利用者の安全を確保するために、道路環境を整備することとなった。



第１図　薬師堂遺跡位置図


仁井田
東高谷
飯室
東雲ゴルフ場
台新田
亀梨
平田
上太田
上柏崎
柳町
五行川
高根沢町
井沼川
中郷
市の堀用水路
島坪
太田
和田
西山
長宮
薬師堂遺跡
桑窪
白鳥
島ヶ内
道内
新田
栗ヶ島
東坪
栗島
宿

第２図　遺跡の位置図

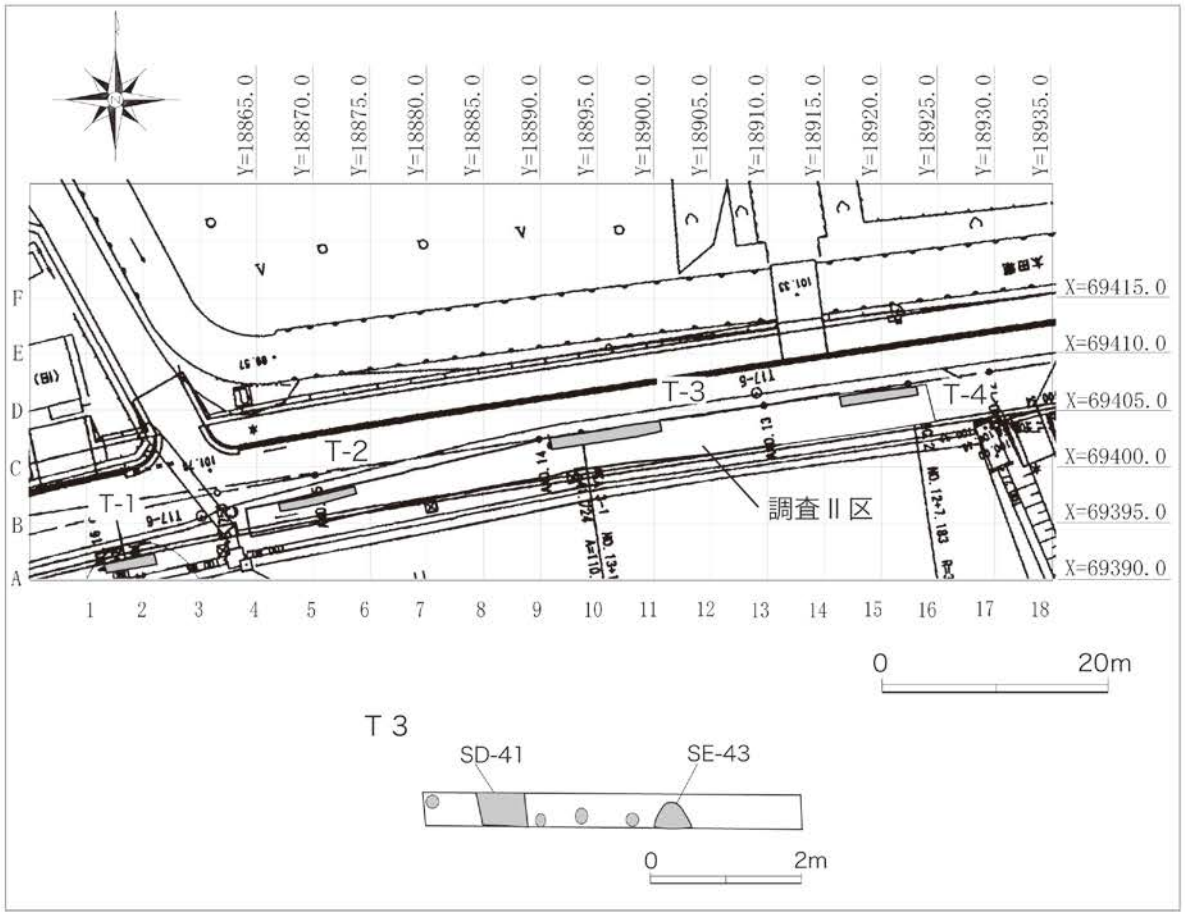
道路整備に伴い、平成20年度に県土整備部から栃木県教育委員会文化財課に、一般県道杉山石末線太田工区についての埋蔵文化財の照会があり、平成20年11月11日栃木県教育委員会文化財課により、薬師堂遺跡西側試掘調査と薬師堂遺跡確認調査が行われた。

薬師堂遺跡西側試掘調査では、事業計画地内の範囲の道路南側について、幅0.8mのトレンチ（試掘溝）を７本設定して、遺構の有無を調査した結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。その結果、今回の工事を実施する範囲については、工事を実施して差し支え無いと判断し、工事中に遺構や遺物が発見された場合は、その取り扱いを県土整備部と協議することになり、道路北側については、試掘調査を行うこととした。

薬師堂遺跡確認調査では、事業計画地内の対象範囲について、幅0.8mのトレンチを4本設定して、遺構の有無を調査した結果、複数の遺構を確認した。特に、溝跡からは遺物がまとまって出土した。このため、発掘調査を行い、詳細は別途協議することになった。その後の協議で、平成21年度後半に3か月の予定で発掘調査を実施することが確定した。

また、この東側にあたる対象範囲については、今後確認調査を実施したうえで、協議することとなった。

その後、平成20年11月11日に試掘調査が行われた薬師堂遺跡西側試掘調査の道路北側の事業計画地内の対象範囲において、トレンチを９本設定して、遺構の有無を調査した結果、遺構は確認されなかったが、遺物片（土師質土器）が２点出土した。その結果、今回の工事を実施する範囲については、工事を実施して差し支え無いと判断し、工事中に遺構や遺物が発見された場合は、その取り扱いを県土整備部と協議することになった。



第３図　試掘調査トレンチ図

発掘調査は平成21年度に実施した。平成21年9月1日付け文財号外で、栃木県教育委員会事務局文化財課課長から財団法人とちぎ生涯学習文化財団理事長あて、「平成21年度県土整備部道路整備課事業に伴う発掘調査（薬師堂遺跡）の費用見積についての依頼があり、同日付けとち埋文第153号で見積書（見積金額・積算説明書）を栃木県知事あて回答した。そして、平成21年9月1日付け文財号外で、「平成21年度薬師堂遺跡発掘調査の埋蔵文化財発掘調査委託契約の締結について」の依頼があり、平成21年9月1日付けとち埋文第154号で回答を行い、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」が、栃木県知事と財団法人とちぎ生涯学習文化財団理事長との間で取り交わされた。主な内容は、委託業務名：薬師堂遺跡発掘調査（道路整備事業一般県道杉山石末線太田工区に伴う発掘調査）、委託業務地：高根沢町太田地内、委託する業務の内容：発掘調査（調査面積490㎡）、委託期間：契約締結日（平成21年9月1日～平成22年3月30日、委託料：13,089,000円（うち消費税及び地方消費税623,285円）である。

整理・報告書作成作業は平成25年度に実施した。平成25年4月1日付け文財号外で栃木県教育委員会事務局文化財課課長から公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長あて、「平成25年度県土整備部道路整備課事業に伴う発掘調査（薬師堂遺跡）の費用見積についての依頼があり、同日付けとち埋文第54号で見積書（見積金額・積算説明書）を栃木県知事あて回答した。そして、平成25年4月1日付け文財号外で、「平成25年度薬師堂遺跡発掘調査の埋蔵文化財発掘調査委託契約の締結について」の依頼があり、平成25年4月1日付けとち埋文第63号で回答を行い、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」が栃木県知事と公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長との間で取り交わされた。主な内容は、委託業務名：薬師堂遺跡発掘調査（安全な道づくり事業費（補助）一般県道杉山石末線太田東工区に伴う発掘調査）、委託業務地：下野市紫474（埋蔵文化財センター）、委託する業務の内容：整理・報告書作成作業（調査面積490㎡）、委託期間：契約締結日（平成25年4月1日～平成26年3月27日（うち2か月）、委託料：金3,065,000円（うち消費税及び地方消費税額145,952円）である。

第２節　発掘調査の方法と経過

薬師堂遺跡の発掘調査地は、道路の拡幅に伴い細長い範囲のため、東からⅠ区～Ⅲ区に分けて調査を行った。調査にあたっては、測量のための杭を国家座標にあわせて5m間隔を基準になるように設定した。

発掘調査は、平成21年10月初旬から12月下旬にかけて実施した。調査にあたり、現況の確認や事前協議、関係機関との調整、作業員の募集などを行いながら、プレハブの設置等の準備を進めていった。先に述べたように、細長い調査区のため、プレハブの設置場所や廃土置き場の確保が難しかったが、調査区東側の現道と調査区の間に場所を確保し、プレハブを設置するとともに、廃土置き場として使用することができた。また、廃土については、ダンプ型の軽自動車をリースし、作業の進捗に合わせて廃土の運搬を行った。また、現道に近接した調査のため、道路と調査区の間にバリケードを設置して、安全に作業ができるようにした。

発掘調査は、重機による表土除去等の掘削で遺構の確認作業を、Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区の順番で実施した。Ⅰ区は五行川の支流である井沼川に隣接している低地に位置しており、現況は水田である。水田の耕作土層の下に黒色土が厚く堆積し、その下面は白色粘土層になり、遺構・遺物等は見られなかった。Ⅱ区も現況は水田であったが、表土を除去すると、七本桜軽石層・今市軽石層が検出でき、その面で遺構が確認できた。Ⅲ区はⅡ区に比べて若干低くなっており、黒色土が厚く堆積しており、遺構の検出はなかった。表土除去作業の終了を待って、遺構が検出できたⅡ区を中心に、作業員による発掘調査を開始した。

遺構の測量は、幅の狭い調査区のうえ、調査期間が短期であることや、測量に使用する杭を方眼状に設定することができなかった。このため、測量の効率を考えトータルステーションによる測量を委託して行った。

また、発掘調査の進捗に合わせて、ラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を行った。

調査終了後は、調査区の埋め戻しを行うとともに、機材の撤収、プレハブの撤去を行い、現地調査による一連の作業を終了した。

整理作業は、平成25年度に埋蔵文化財センターで実施した。出土遺物は水洗作業、注記作業を行い、その後に接合作業、復元作業を行った後に、実測作業と必要に応じて拓本も採り、遺物図版を作成した。また、実測などの作業と併せて、写真の撮影も行い写真の図版も作成した。遺構の図面については、委託した測量図を使用して遺構の図版を作成し、遺構配置図や全体図の図版も作成した。

上記の図版作成と併せて遺構・遺物の原稿等を執筆し、それを割り付けて校正をした後、平成26年3月刊行の報告書をもって、安全な道づくり事業費（補助）一般県道杉山石末線太田東工区に伴う薬師堂遺跡の発掘調査は終了した。

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

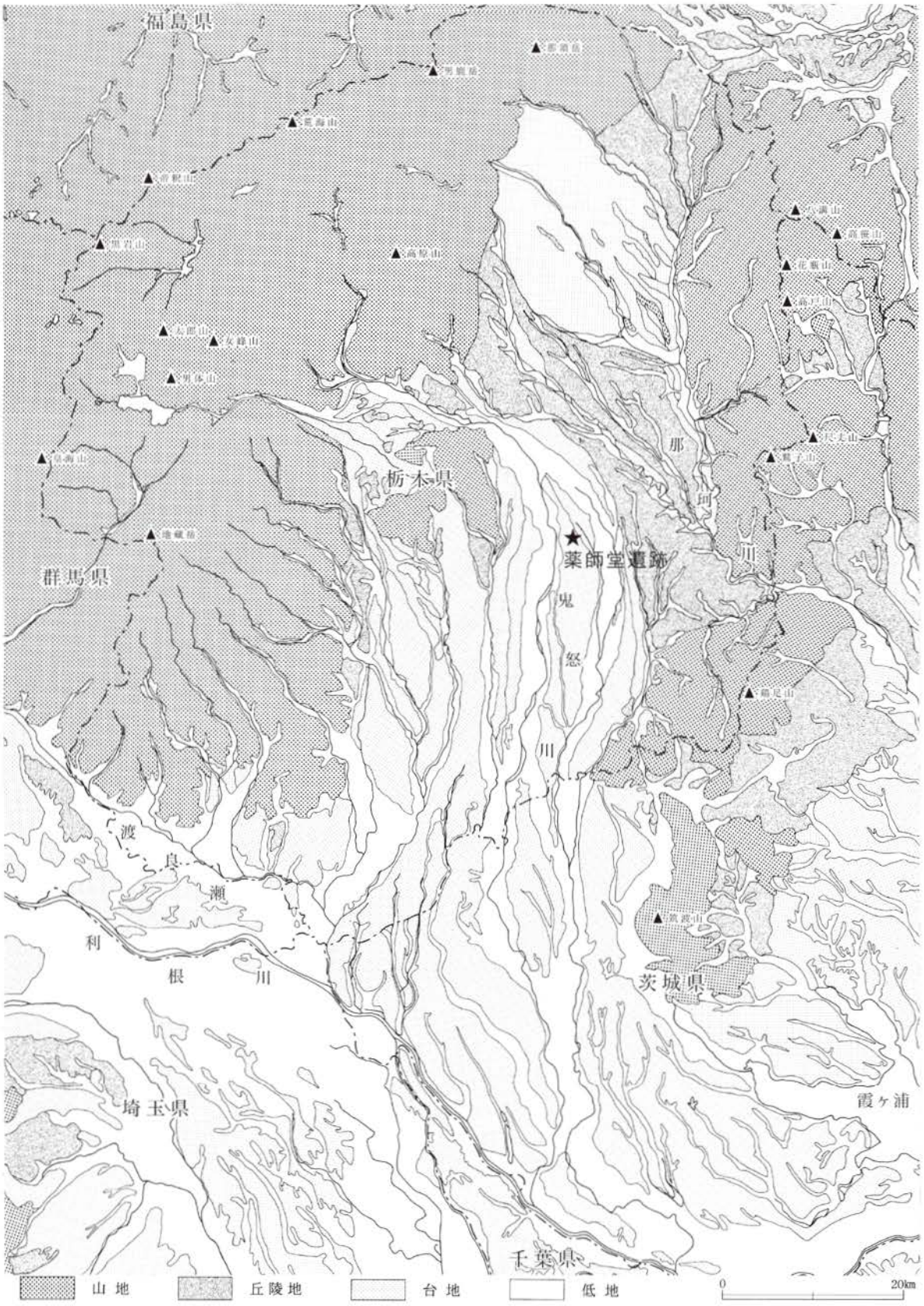
薬師堂遺跡は栃木県塩谷郡高根沢町大字太田に所在する。県庁所在地である宇都宮から北東16.5km、ＪＲ宝積寺駅の東方5.5kmに位置している。遺跡の東側には井沼川が南流し、周辺には水田地帯が広がっている。また、はるか北方に那須連山、高原山、日光連山を望むことができる。

高根沢町の周囲は、鬼怒川にそって南北にのびる喜連川丘陵（標高170m～190m）と鬼怒川の間に広がる低地からなる。細かく見れば、鬼怒川の東岸は宝積寺台地（標高150m～160m、南関東の下住吉面に対比）となり、その東側には、丘陵と鬼怒川の間にできた五行川により形成された概ね平坦な沖積低地が広がる。この低地は、県内でも有数の穀倉地帯になっており、鬼怒川に並行して南下し芳賀町に至っている。遺跡は、井沼川と五行川の間に挟まれた氏家・仁井田台地の上に所在する。台地は遺跡の北側からのびてきており、やがて遺跡の南側の五行川と井沼川が合流するところでなくなる。

栃木県は、関東地方の北部中央に位置する内陸県である。東に茨城県、西に群馬県、南に茨城県・埼玉県・群馬県、北に福島県が隣接する。県域の広がりは東西約75km・南北約98km、面積約6,414㎢で、平面形は南北にやや長い楕円形である。地形は、東部と西部が山地、およびその間を南北に展開する中央部平地に分けられる。

東部山地は茨城県境を南北に走る八溝山地を指し、北から八溝山塊・鷲子（とりのこ）山塊・鶏足山塊と続き、茨城県の筑波山塊へと至る。北方の八溝山（1,022m）が最も高く、山頂高度は南方に行くに従って低くなる。山は全体的に丸味を帯びるものが多く、那珂川等の浸食による小谷の発達が著しい。

西部山地は福島県境から群馬県境にかけて南北に走る、北部の帝釈山地と南部の足尾山地からなる。帝釈山地は主峰の帝釈山（2,060m）をはじめ、2,000m級の山岳からなり、群馬県境の白根山（2,578m）は関東以北の最高峰である。概して山は険しく、山地を刻む谷は深い。また、この帝釈山地の東部から南部にかけては、那須火山群・高原火山群・日光火山群が分布しており、那須・塩原・鬼怒川・川治等の多数の温泉や、



第4図　遺跡の位置と地形図

那須（茶臼）岳（1,917m）・男体山（2,484m）・中禅寺湖等の変化に富む景勝の地とみなされている。足尾山地は、北境を大谷川によって画され、南方と東方は関東平野に臨んでいる。概して山腹は急傾斜であるが、山麓は穏やかに傾斜しており、八溝山地と同様、山頂高度は南方に行くに従って低くなっている。

中央部平地は、丘陵・台地・低地からなり、全体として南方に開けた地形である。平地北部は那珂川とその支流域に含まれ、北から高久丘陵・那須扇状地・塩那丘陵と並んでいる。高久（白河）丘陵は、那須岳東麓から八溝山地西麓までの区域で、火山性堆積物によって構成される。その南に位置する木の葉状の那須扇状地は、那須野ケ原とも呼ばれ、水利に乏しい地域で、明治時代に入るまで茫漠たる荒野であった。塩那（喜連川）丘陵は、箒川の南に展開し、高原火山群の山麓から益子まで及び、北西から南東方向にかけて緩やかな山容を見せている。平地中部・南部は、大谷川下流部の今市市街地付近に広がる今市扇状地、古賀志山地から宇都宮市街地にかけて発達している宇都宮丘陵、五行川・小貝川・鬼怒川等の支流域に沿って、宝木段丘・田原段丘・鬼怒川低地・宝積寺段丘等が交互に並ぶ沖積平野、渡良瀬川と思川の付近の低地等に大別される。これらの台地と低地は緩やかに南傾するが、台地の傾きが低地よりも大きいため、南下するに従い、台地と低地の比高差は小さくなる。また、中央部平地は南に開けるだけではなく、福島県中通りへと続く地形的特徴のため、東北地方への通路としての役割も古来果たしてきた。

参考文献

阿久津純　1976「栃木県の地形・地質（県中北部を中心に）」『栃木県史』資料編　考古１　栃木県史編さん委員会

「角川日本地名大辞典」編纂委員会　1984『角川日本地名大辞典　9　栃木県』　角川書店

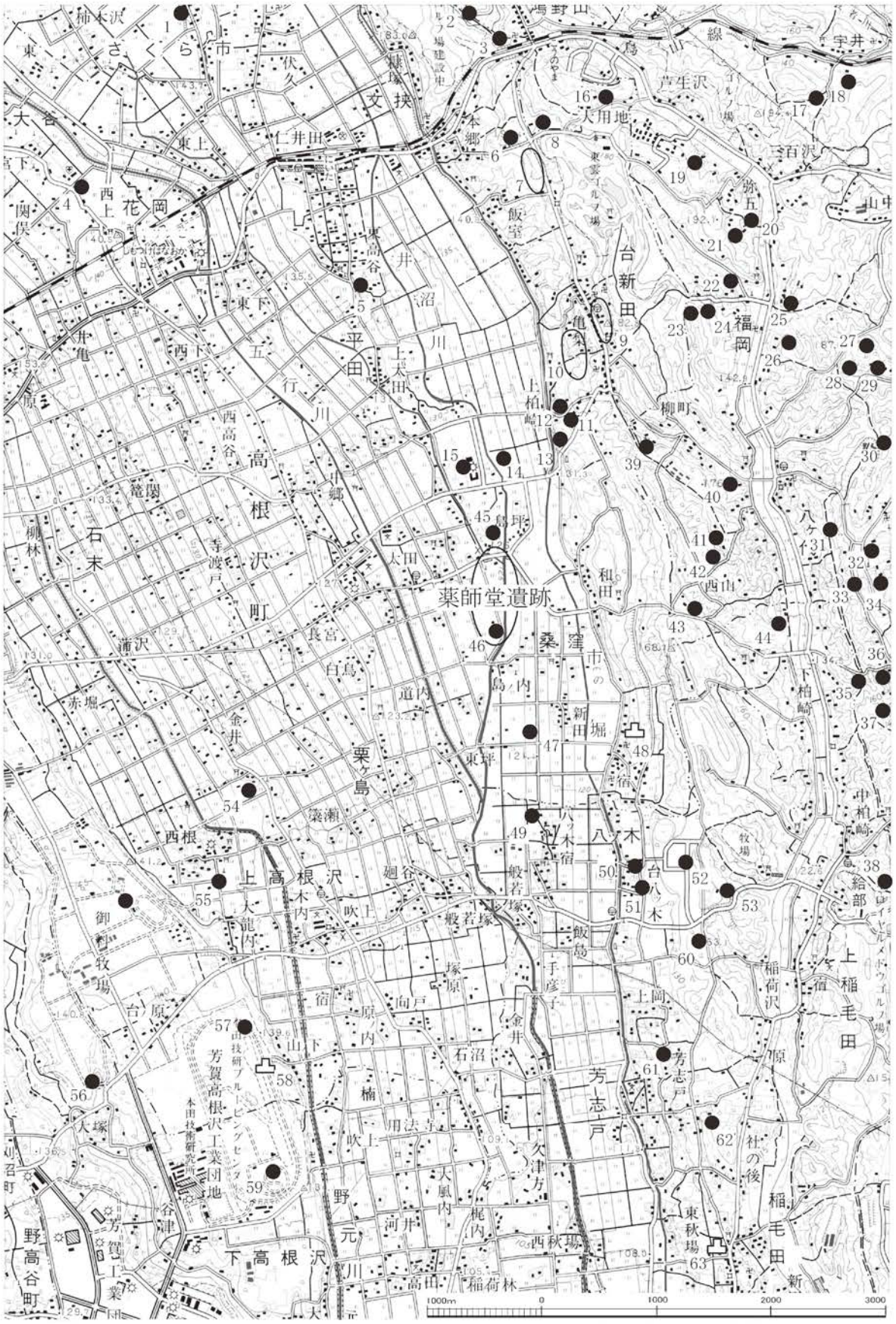
国土庁土地局国土調査課　1991『土地分類図09（栃木県）1974』復刻版　財団法人日本地図センター

第２節　歴史的環境

薬師堂遺跡の周辺の遺跡の分布は、低湿な五行川低地には遺跡が少なく、宝積寺台地や喜連川丘陵に多い傾向が見られる。

高根沢町域の旧石器時代の遺跡は、宝積寺台地の崖の下に広く遺物が散布している西根遺跡から石槍が採集されている。全般に旧石器時代の遺跡の調査例は少ないが、本遺跡の東にある喜連川丘陵上に位置する上山遺跡からは、ナイフ型石器が出土している。

縄文時代になると、中期・後期の調査事例がある。縄文中期の遺跡では、荻ノ平遺跡があげられる。発掘調査の結果、縄文時代中期から後期の竪穴住居跡24軒、埋甕38期、掘立柱建物跡2棟、配石遺構遺物集中地16箇所、袋状土坑や墓を含む土坑441基、溝6条、包含層1箇所が確認された。遺構とともに中心になるのは阿玉台式期以降であり、以後加曽利B式期まで確認されている。また、遺物では、包含層中から晩期のものまで出土している。遺構・遺物で主体となるのは、加曽利E式後半から綱取式、堀之内式1式である。また、荻ノ平遺跡に近接している大野遺跡では、竪穴住居跡4軒、袋状土坑12基、埋甕1基、土坑50基などが検出され、阿玉台Ⅳ式から大木8a式を主体として加曽利E1式までを含んでいる。大野遺跡の時期に近い阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期の遺跡には、石神遺跡・台の原C遺跡・上の原B遺跡・東谷津遺跡などがあげられ。石神遺跡は鬼怒川に面する宝積寺台地上にあり、阿玉台式期の有段住居跡が発見され、ここから磨製石斧の原石や未製品が出土したことから、石器製作工房跡であることが明らかになった。ほかに、宝積寺台地上のまとまった資料として、上高根沢に所在する上の原B遺跡が挙げることができる。中期の竪穴住居跡19軒、袋状土坑



第５図　周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時期	種別・備考
1	竹橋南遺跡	奈良～平安	散布地
2	細内遺跡	縄・奈良～平安	散布地
3	中戸屋遺跡	縄・奈良～平安	散布地
4	花ノ木五輪塔	中世	塚・五輪塔
5	大塚古墳	古墳	円墳　直径 15m、高さ 3m
6	大野遺跡	縄文	1999 年発掘調査
7	台新田古墳群	古墳	現在円墳４基を確認　　１基発掘調査
8	荻ノ平遺跡	縄文	2000 年、2001 年発掘調査
9	亀梨古墳群	古墳	円墳　３基現存・２基滅失・箱式石棺が存在
10	甲塚古墳群	古墳	円墳　８基現存
11	横場Ａ遺跡	弥生	散布地　個体資料（壺）出土
12	愛宕塚古墳	古墳	直径約 39m、高さ 4.7m。高根沢町内最大の古墳
13	春日坂遺跡	古墳	古墳滅失。土師器個体資料出土
14	塚田古墳	古墳	昭和 25・26 年の耕地整理で滅失
15	砂部遺跡	古墳・奈良～平安・中世～近世	1990 年発掘調査
16	大用地Ｂ遺跡	縄文・中世	2000 年、2001 年発掘調査
17	花久保遺跡	古墳	散布地
18	漆房遺跡	奈良～平安・中世	散布地
19	坂下遺跡	奈良～平安・中世	散布地
20	丸山Ａ遺跡	縄文・古墳	散布地
21	丸山Ｂ遺跡	縄文・奈良～平安・中世	散布地
22	西道地遺跡	古墳	散布地
23	台新田古墳群	古墳	円墳　２基
24	万行原道下	縄文・古墳・平安	散布地
25	笹原山遺跡	縄文・古墳・奈良～平安	散布地
26	朝日向遺跡	縄文・平安	散布地
27	東山Ａ遺跡	縄文・古墳・奈良～平安	散布地
28	東山Ｂ遺跡	奈良～平安・中世	散布地
29	東山Ｃ遺跡	縄文・奈良～平安	散布地
30	金掘塚古墳群	古墳	前方後円墳１基、円墳４基
31	西向遺跡	奈良～平安	散布地
32	橋本遺跡	奈良～平安	散布地
33	細久保遺跡	奈良～平安	散布地
34	四ッ塚古墳群	古墳	円墳　４基
35	桜内Ｃ遺跡	縄文・平安	散布地
36	桜内Ｂ遺跡	縄文・平安	散布地
37	桜内Ａ遺跡	奈良～平安・中世	散布地
38	七ッ塚古墳群	古墳	前方後円墳２基、円墳 16 基
39	西山Ｄ遺跡	縄文・奈良～平安・中世	散布地
40	新屋敷遺跡	奈良～平安	散布地
41	西山Ｃ遺跡	奈良～平安	散布地
42	西山Ｂ遺跡	縄文・奈良～平安	散布地
43	西山古墳	古墳	円墳　１基
44	富士山遺跡	奈良～平安・中世	散布地
45	屋敷東遺跡	古墳・奈良～平安・中世・近世	散布地
46	塚原古墳	古墳	直径約 21m、高さ 5m。
47	薬師堂古墳	古墳	直径約 20m、高さ 2m。
48	桑窪城跡	中世	城館跡
49	八ツ木新田遺跡	古墳・奈良～平安	散布地
50	八斗内遺跡	古墳	土師器個体資料出土
51	坪之内遺跡	古墳	1956 年発掘調査。
52	八ツ木古墳群	古墳	前方後円墳１基、陪塚１基
53	千が窪古墳	古墳	円墳　直径 17m
54	金井遺跡	旧石器・縄文・古墳・奈良～平安・中世・近世	集落跡・
55	西根遺跡	旧石器・縄文・奈良～平安・中世・近世	散布地
56	不動山古墳群	古墳	円墳　２基
57	上の原Ｂ遺跡	縄文・奈良～平安・中世	集落跡・
58	高根沢城跡	中世	城館跡
59	金井台遺跡	縄文	1969 年発掘調査。配石遺構、袋状土坑検出。
60	大塚台古墳	古墳	円墳　東西 49m、南北 45m
61	上岡台遺跡	古墳	土師器個体資料出土
62	芳志戸十三塚古墳	古墳	円墳　直刀片・石製模造品出土
63	稲毛田城跡	中世	城館跡

を含む土坑167基が発見された。帯状の調査地には、土坑群を挟むように竪穴住居跡が分布しており、貯蔵機能の場と住居の場の関連を知る良好な資料となっている。

縄文時代後期には、高根沢町から那須烏山市域では、堀之内式期の遺跡が比較的多く確認されている。高根沢町域では、石末の向原遺跡・西根遺跡・台の原遺跡C遺跡・東谷遺跡などにおいて堀之内式土器が出土している。また、先述した荻ノ平遺跡では、後期初頭の称名寺式期敷石住居が検出されている。

弥生時代では、周辺でも遺跡数が少なく、亀梨の東谷津遺跡・下柏崎の斧窪遺跡などが確認されている。また、低地部では、花岡の下松原A遺跡などが所在する。

古墳時代は、遺跡の東側の丘陵上には、台新田古墳群・上の台古墳群・亀梨古墳群・甲塚古墳群などが造られている。台新田古墳群は、横穴式石室が残る後期群集墳であり、低地に広がる水田地帯に面した喜連川丘陵西縁に墓域がまとまって形成されていたようである。また、古墳群のある丘陵西側には、高根沢町内最大の直径39mを測る愛宕塚古墳が造られている。

奈良・平安時代には、本遺跡の周辺は、芳賀郡新田郷に属していたとみられる。本遺跡北側にある仁井田は、「新田郷」の遺称とみられ、その北側では東山道と考えられる遺構が調査されている。また、文献資料では、新田駅家が置かれていたことがわかる。本遺跡周辺の奈良・平安時代の遺跡では、調査地の北に近接した砂部遺跡が特質される。竪穴住居跡47軒、掘立柱建物跡49棟などが確認され、掘立柱建物跡の多さは県内でも有数の遺跡である。

中世の遺跡では、大用地B遺跡の発掘調査が行われ、掘立柱建物跡4棟、地下式壙4基などが確認され、内耳土器や常滑焼などが出土している。高根沢町内には中世城館も所在している。これらの城館は、宇都宮氏と那須氏の境界が接する場所として、重要な役割を持っていたことがうかがえる。また、本遺跡の北に位置する花岡には、花の木五輪塔がある。

参考文献

高根沢町史編さん委員会　1995『高根沢町史・資料編Ⅰ　原始古代　中世』

初山孝行・津野　仁ほか　2002『大野遺跡・大用地B遺跡』(財)とちぎ生涯学習文化財団

津野　仁ほか　2003『荻ノ平遺跡』(財)とちぎ生涯学習文化財団

亀田幸久　1994『石神遺跡』(財)栃木県文化振興事業団

藤田典夫ほか　1990『砂部遺跡』(財)栃木県文化振興事業団

青木健二ほか　1981『芳賀高根沢工業団地地内　上の原遺跡発掘調査報告書』栃木県企業局

台新田古墳（東から）

桑窪城跡（南から）

第３章　薬師堂遺跡の発掘調査

第１節　調査の概要

今回の発掘調査区は、一般県道杉山石末線の南側の拡幅部分である。調査対象範囲は、東西約250mと細長い。調査区はⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区と３箇所について、Ⅰ区は長さ約45m、幅は東側の広い場所で4m、西側の狭い場所で2m、Ⅱ区は長さ約60m、幅は東側の広い場所で4m、西側の狭い場所で2m、Ⅲ区は長さ5m、幅2mの範囲を、重機により表土除去を行った。

その結果、遺構の見つかったⅡ区について調査を実施した。Ⅰ区については、低地であるため重機による掘削時にすぐに水が涌き出すため、遺構・遺物の有無を確認したのみである。また、Ⅲ区についても遺構は確認出来なかった。このため、作業員による調査区の精査を実施し、記録写真の撮影を行った。

第２節　発見された遺構と遺物

Ⅱ区の調査区からは土坑12基、井戸4本、溝３条、小穴53基の計72基の遺構を検出した。

SK-01～SK-14（第8図・第10図）

SK-01　B-3に位置する。不整形を呈し、長径0.35m、短径0.29m、深さ0.20mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、北壁側には段があり、段までの深さは0.08mである。　**SK-02**　C-4に位置する。円形を呈し、直径0.40m、深さ0.33mを測る。底面は丸みを持ち、壁は少し開き気味に立ち上がる。　**SK-03**　C-4に位置する。不整な方形を呈し、一辺0.25m、深さ0.21mを測る。底面は丸みを持ち、壁は少し開き気味に立ち上がる。　**SK-04**　C-4に位置する。やや不整な円形を呈し、直径0.20m、深さ0.20mを測る。底面は丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。　**SK-05**　C-4に位置する。やや不整な円形を呈し、直径0.22m、深さ0.20mを測る。底面は丸みを持ち、壁は若干開きながら立ち上がる。　**SK-06**　B-4に位置する。南側が調査区外のため、形状、規模は把握できないが、現状で判断できる形状は不整な楕円形を呈し、底面は平坦であるが、北西壁際に直径約0.18mの小ピットが掘られている。土坑の幅0.44m、深さは0.13mで、ピットの最も深い場所は0.22mを測る。ピットの底面は丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。　**SK-07**　C-4に位置する。土坑の大部分が調査区外のため形状、規模ともに不明であるが、深さ0.13mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は開きながら立ち上がる。　**SK-08**　C-4に位置する。不整な円形を呈し、直径0.22m、深さ0.21mを測る。底面は丸みを持ち、壁は開きながら立ち上がる。　**SK-09**　C-4に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.30m、短径0.18m、深さ0.20mを測る。底面に段差が見られ、壁は開き気味に立ち上がる。

SK-10　B-4に位置する。不整な円形を呈し、直径約0.30m、深さ0.10mを測る。底面は平坦で、壁は丸みを持って立ち上がる。　**SK-11**　C-4に位置する。不整な円形を呈し、直径約0.23m、深さ0.06mを測る。北東側がSK-12と重複しており、SK-12が新しい。底面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

SK-12　C-4に位置する。不整な円形を呈し、直径0.38m、深さ0.25mを測る。底面は丸みを持ち、壁は開きながら立ち上がる。　**SK-13**　C-4に位置する。不整な円形を呈し、直径0.30m、深さ0.32mを測る。底面は丸く狭くなっており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。　**SK-14**　C-4に位置する。不整な円形を呈し、直径0.20m、深さ0.22mを測る。底面は丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

SK-15～SK-17（第8図・第11図）

SK-15　C-4に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.29m、短径0.14m、深さ0.13mを測る。底面、壁面とも不整な形状である。　**SK-16**　C-5に位置する。不整な円形を呈し、直径0.24m、短径0.20m、深さ

0.11mを測る。底面は丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。　SK-17　C-5に位置する。不整な円形を呈し、直径0.18m、深さ0.08mを測る。壁は底面から丸みを持ちながら立ち上がる。

SK-18～SK-26（第8図・第12図）

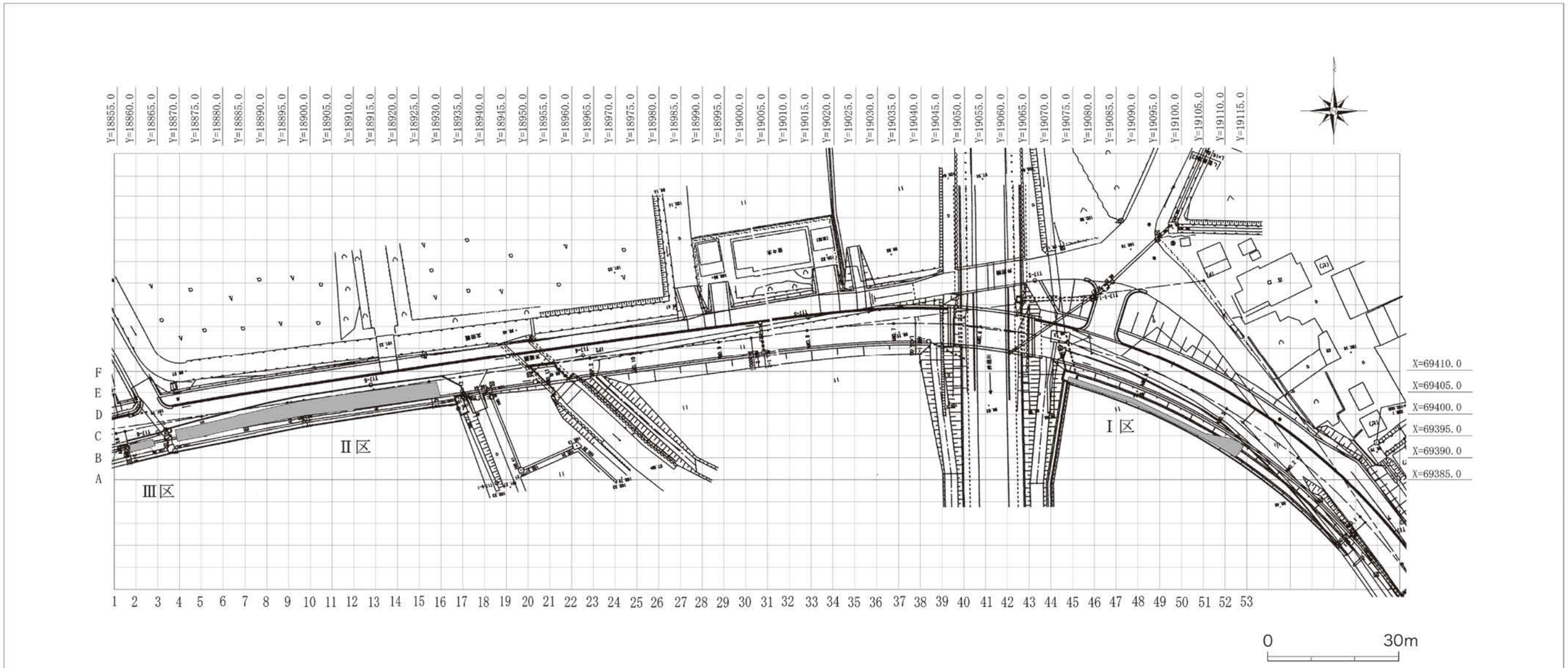
SK-18　C-6に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.41m、短径0.36m、深さ0.16mを測る。底面はほぼ平坦で壁は垂直に立ち上がる。　SK-19　C-6に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.52m、短径0.48m、深さ0.11mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。　SK-20　C-6に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.53m、短径0.48m、深さ0.10mを測る。底面は平坦で壁は垂直に立ち上がる。SK-21　C-6に位置する。不整な円形を呈し、直径0.16m、深さ0.08mを測る。底面は丸みを持ち壁はやや開きながら立ち上がる。　SK-22　C-6に位置する。円形方形を呈し、直径0.13～0.15m、深さ0.14mを測る。底面は丸みを持ち壁はやや開きながら立ち上がる。　SK-23　C-6からC-7にかけて位置する。不整な円形を呈し、直径0.37～0.40m、深さ0.17mを測る。底面は丸みを持ち壁はやや開きながら立ち上がる。　SK-24　C-7に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.37m、短径0.28m、深さ0.07mを測る。底面は丸みを持ち壁はやや開きながら立ち上がる。　SK-25　C-7に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.22m、短径0.16m、深さ0.13mを測る。底面は丸みを持ち壁はやや開きながら立ち上がる。　SK-26　C-7に位置する。不整な方形を呈し、長径0.66m、短径0.54m、深さ0.08mを測る、底面は平坦で壁は開きながら立ち上がる。

SK-27～SK-32・SD-34・SK-36（第8図・第13図）

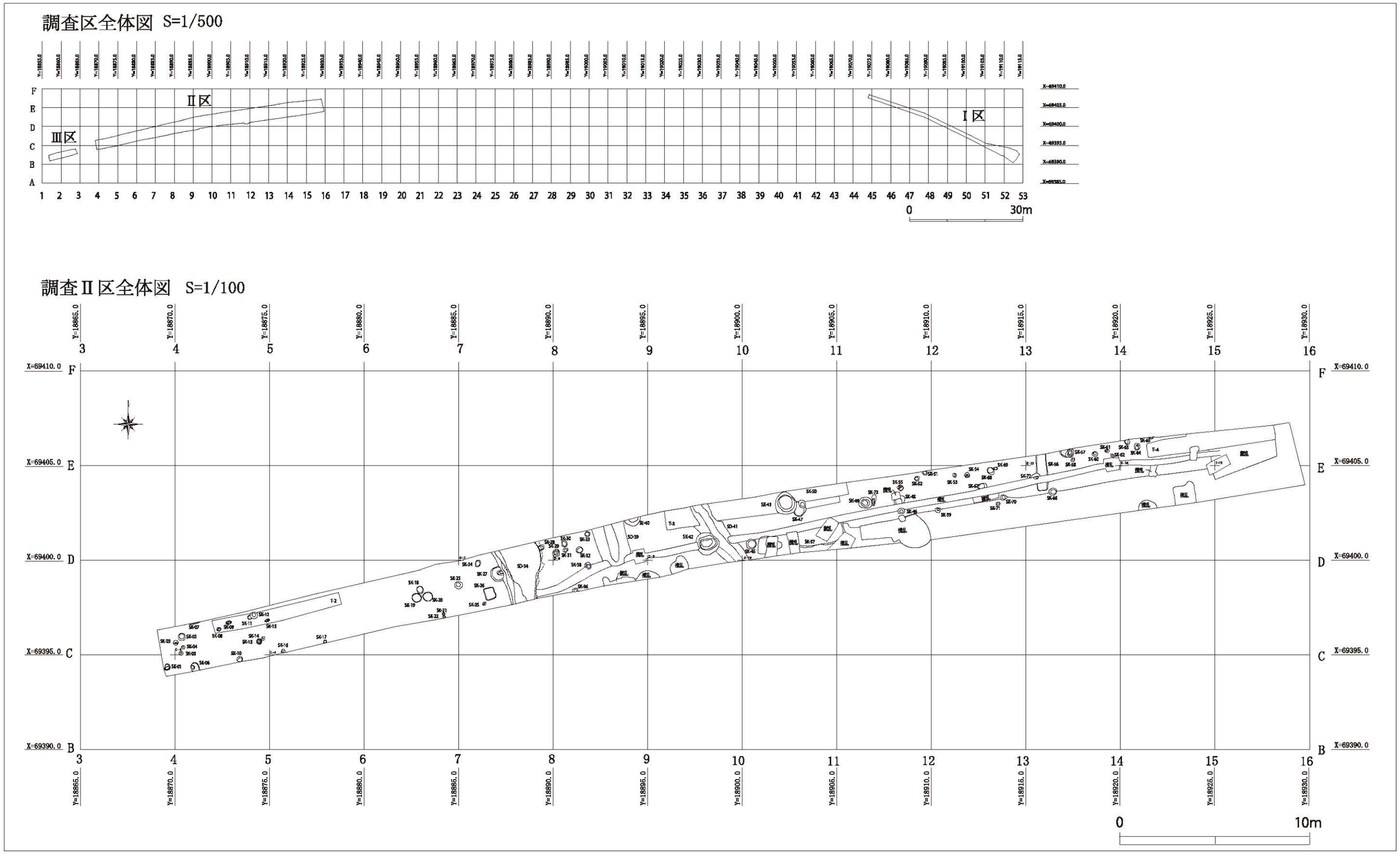
SK-27　C-7に位置する。不整な円形を呈し、直径0.78m、深さ0.32mを測る。底面の中央が若干くぼんでおり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。東側がSD-34と重複しているが、新旧関係は不明である。　SK-28　D-7に位置する。不整な方形を呈し、長径は西側がSD-34と重複しており不明であるが、短径0.29m、深さ0.23mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。SD-34との新旧関係は不明である。　SK-29　D-8に位置する。不整な楕円形を呈し、直径0.43m、短径0.36m、深さ0.19mを測る。底面は丸みを持ち壁はやや開きながら立ち上がる。　SK-30　D-8に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.35m、短径0.29m、深さ0.07mを測る。底面はほぼ平坦で、壁はやや開きながら立ち上がる。　SK-31　D-8に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.28m、短径0.21m、深さ0.15mを測る。底面は丸みを持ち壁はほぼ垂直に立ち上がる。　SK-32　D-8に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.36m、短径0.34m、深さ0.17mを測る。底面は平坦で、壁はやや開きながら立ち上がる。　SD-34　C-7・D-7に位置する。南北に延びる溝の一部で、最大幅2.35m、最小幅1.35m、深さ1.11mを測る。底面は若干の凹凸が見られる。西側の壁は底面から若干開きながら立ち上がり、途中から大きく開く。東壁は底部から丸みを持ってオーバーハングしていおり、その上はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は自然体積で、セクションでは溝の上層に他の遺構が確認出来るが、平面の形状は不明である。　SK-36　C-8に位置する。南側が調査区外のため形状は不明であるが、不整な円形を呈すると思われる。直径0.20m前後、深さ0.23mを測る。底面は丸みを持ち壁はやや開きながら立ち上がる。

SK-33・SK-38・SD-39・SE-40（第8図・第14図）

SK-33　C-9に位置する。不整な円形を呈し、直径0.28m前後、深さ0.12mを測る。底面はほぼ平坦で壁は垂直に立ち上がる。　SK-38　C-8に位置する。不整な円を呈し、直径0.36m前後、深さ0.66mを測る。底面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。　SD-39　C-8・D-8に位置する。南北に延びる溝の一部で、南側は攪乱により不明である。幅1.76m前後、深さ0.81mを測る。底面は平坦で、壁は開きながら立ち上がる。



第６図　薬師堂遺跡発掘調査区



第７図　薬師堂遺跡発掘調査区全体図・調査Ⅱ区全体図

覆土は自然体積である。　SE-40　D-8に位置する。不整な円形を呈する。直径0.86m前後で、深さは、1.8mまでは掘ることができたが、底部まで掘りあげることが出来なかったため不明であるが、ピンポールによりさらに1m以上の深さがあることが確認できた。壁は若干開きながら立ち上がる。覆土は人為的な埋め戻しによる。

SD-41・SE-42・SK-45（第8図・第15図）

SD-41　C-9・D-9に位置する。南北に延びる溝の一部で、幅1.55m前後、深さ0.62mを測る。南北共に調査区の外に伸びているため、長さは不明である。底面は平坦で、壁は若干丸みをもちながら開いて立ち上がる。覆土第1層の下層部からは、かわらけがまとまって出土している。　SE-42　D-9に位置する。不整な円形を呈し、長径1.24m、短径1.13m、深さは、1.5mまでは掘ることができたが、底部まで掘りあげることが出来なかったため不明であるが、ピンポールによりさらに1m以上の深さがあることが確認できた。確認面から1.0m前後までは幅が広いが、それより下は幅が狭くなっている。覆土の観察により、４～５層と６層以下では堆積の仕方やしまりに相違がみられる。６層以下は、人為的に埋め戻しているが、４～５層では自然堆積であることから、上の部分は別の遺構が重複していた可能性が考えられる。　SK-45　D-9に位置する。不整な円形を呈し、直径0.55m、深さ1.21mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

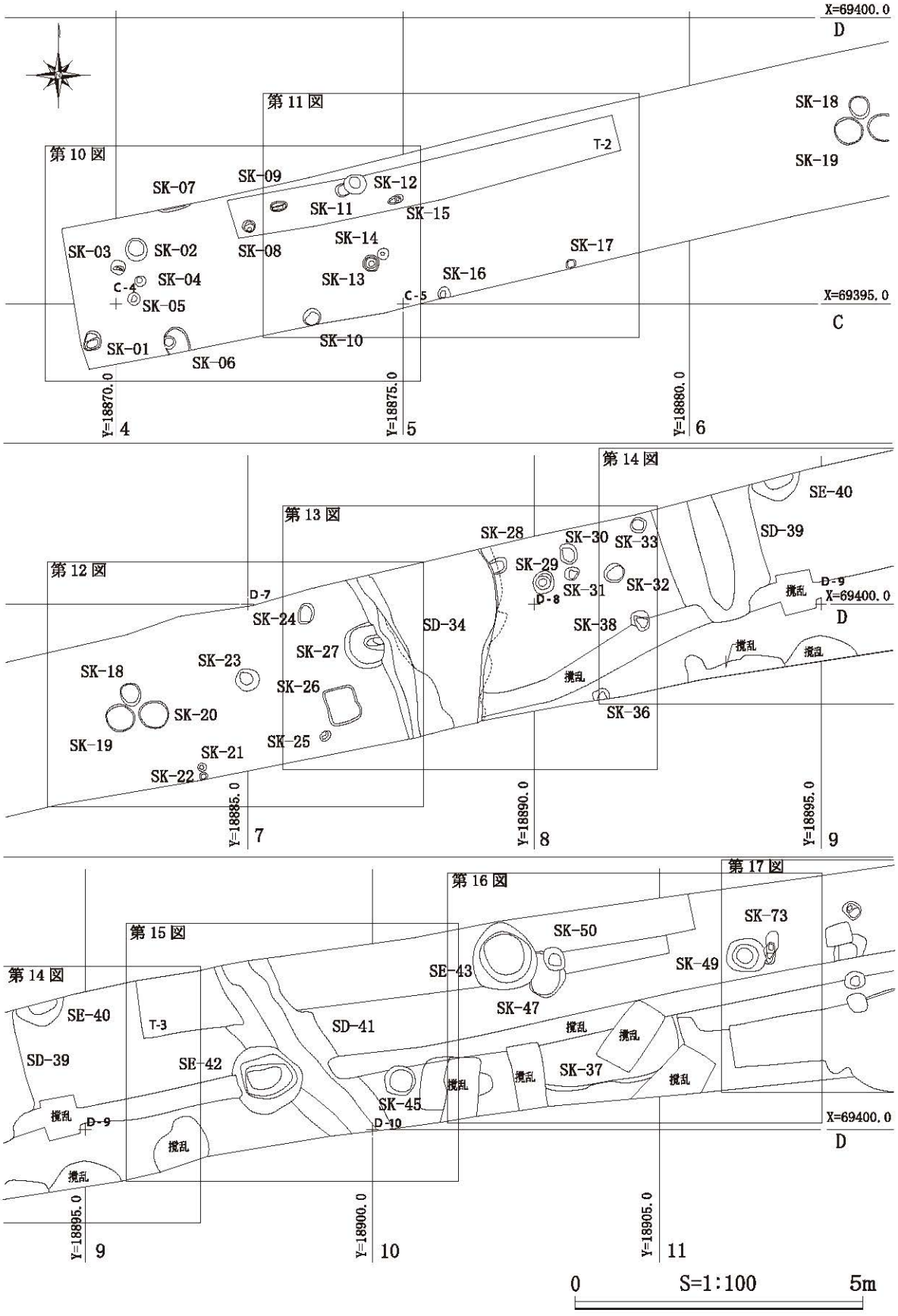
SK-37・SE-43・SK-47・49・50・73（第8図・第16図）

SK-37　D-10・11に位置する。長方形を呈すると思われるが、西側が攪乱を受け、北側がSD-35に切られているために、形状は不明である。現存している長径2.46m、短径0.87m、深さ0.48mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。　SE-43　D-10に位置する。不整な円形方形を呈し、長径1.19m、短径1.05m、深さは1.51mまでは掘ることができたが、底部まで掘りあげることが出来なかったため不明であるが、ピンポールによりさらに1m以上の深さがあることが確認できた。壁は若干開きながら立ち上がる。東側がSK-47と重複しているが、新旧関係は不明である。　SK-47　D-10に位置する。不整形を呈し、長径0.82m、短径0.54m、深さ0.37mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。北側がSK-50と重複しているが新旧関係は不明である。　SK-49　D-10に位置する。不整な円形を呈し、長径0.70m、短径0.56m、深さ0.33mを測る。底面はやや、丸みを持ち、壁は開きながら立ち上がる。東側がSK-73と重複しており、SK-49が新しい。　SK-50　C-4に位置する。不整な円形を呈し、長径0.42m、短径0.34m、深さ0.22mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。　SK-73　D-10に位置する。不整形を呈し、長径0.55m、短径0.20m、深さ0.54mを測る。底面は狭く、壁は開きながら立ち上がる。

SK-46・48・51～53・55・59（第9図・第17図）

SK-46　D-11に位置する。不整な円形を呈し、長径0.35m、短径0.30m、深さ0.73mを測る。底面は丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。　SK-48　D-11に位置する。不整形を呈する。南側がSE-35に切られているために長径は不明であるが、短径0.40m、深さ0.28m、長径の現存している長さ0.5mを測る。底面は若干丸みを持ち、壁は開きながら立ち上がる。　SK-51　D-11に位置する。北側が調査区外のため形状は不明であるが、不整な円形と思われる。直径0.25m、深さ0.42mを測る。底面は若干丸みを持ち、壁は垂直に立ち上がる。　SK-52　D-11に位置する。不整形を呈し、長径0.26m、短径0.24m、深さ0.17mを測る。底面から丸みを持ち、壁は若干開きながら立ち上がる。　SK-53　E-11に位置する。不整な円形を呈し、長径0.25m、短径0.20m、深さ0.08mを測る。床面はやや丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

SK-55　D-11に位置する。不整な方形を呈し、長径0.32m、短径0.26m、深さ0.32mを測る。底面は北側が若干くぼんでおり、壁はやや開きながら立ち上がる。　SK-59　E-11に位置する。不整な円形を呈し、直



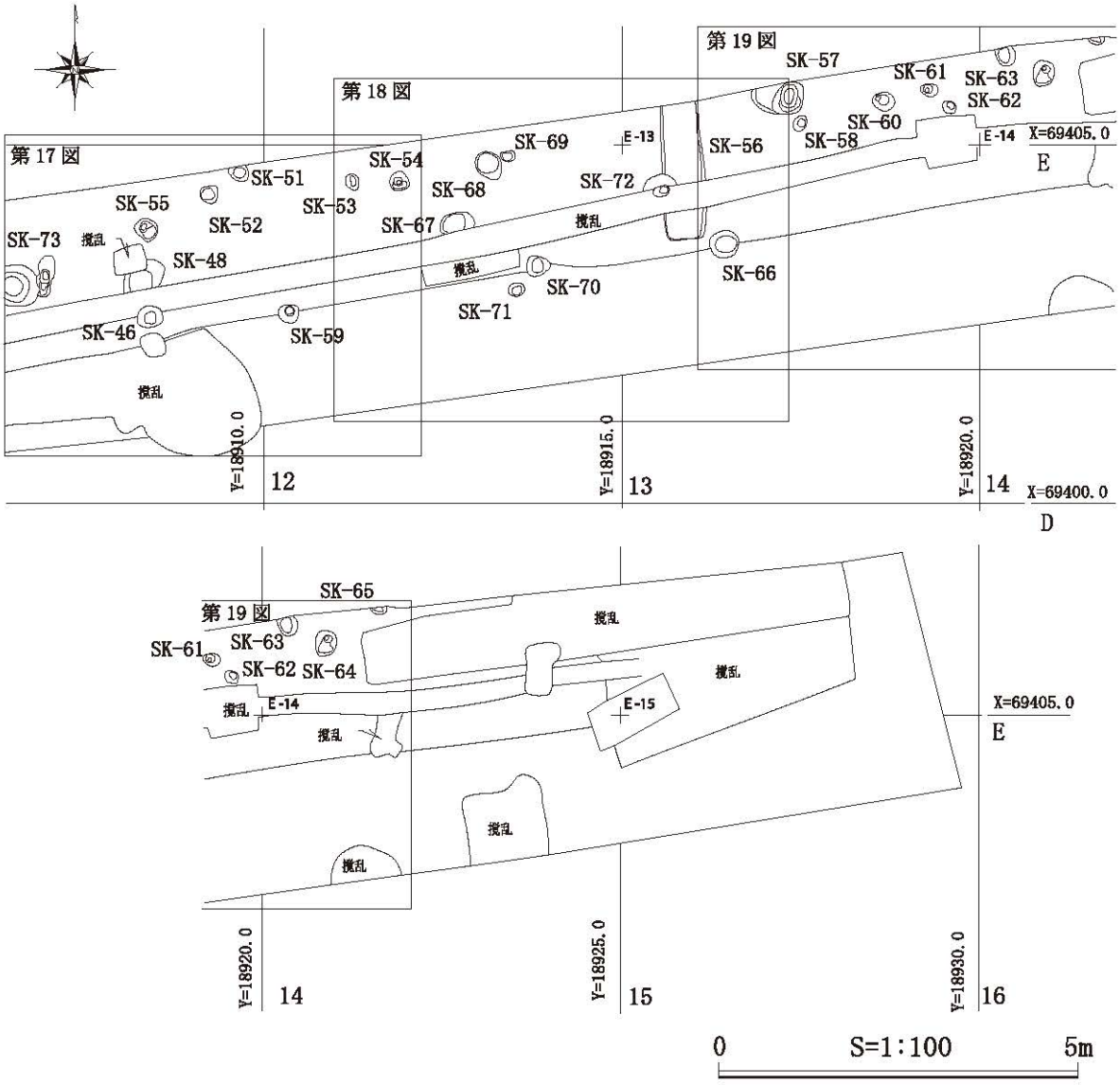
第８図　Ⅱ区　遺構配置図（１）

径0.29m、短径0.25m、深さ0.45mを測る。底面は平坦で壁は底面から0.22mまでは垂直に立ち上がり、そこから開きながら立ち上がる。

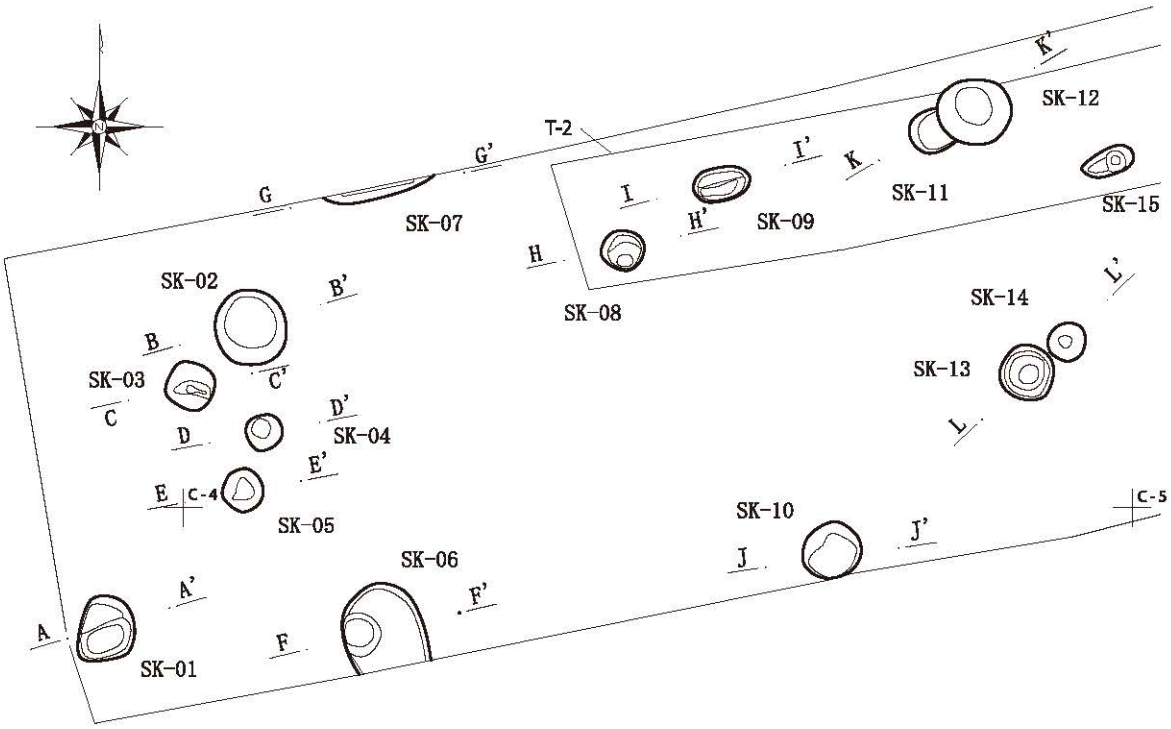
SK-54・56・66・67・68・69・70・71・72 （第9図・第18図）

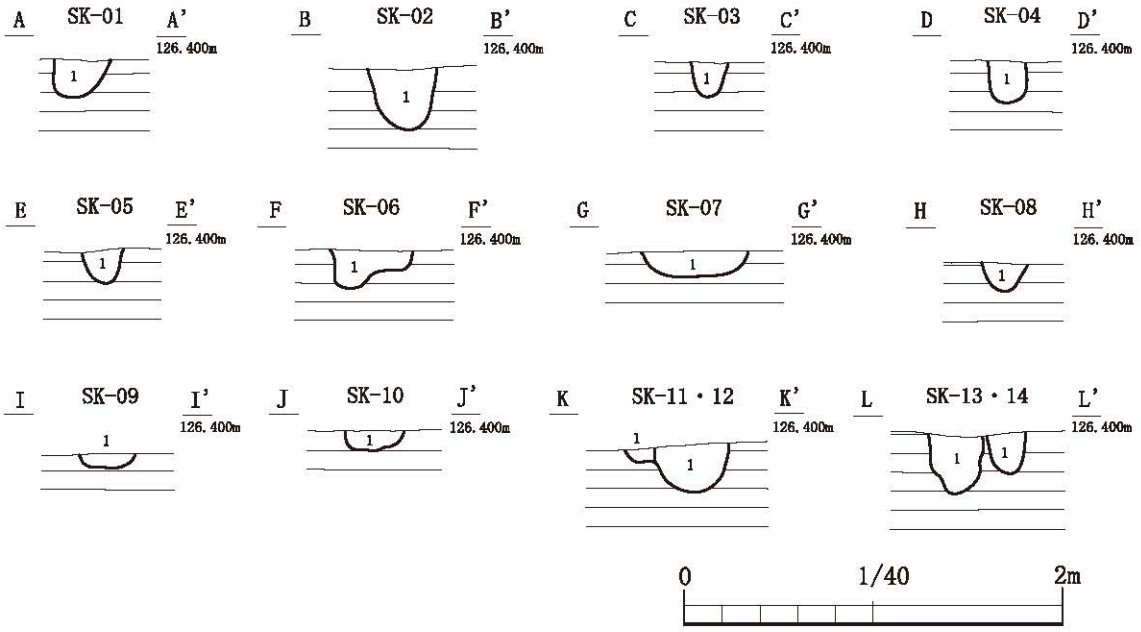
SK-54　D-12に位置する。不整な円形を呈し、長径0.29m、短径0.28m、深さ0.27mを測る。底面はやや丸みを持ち、壁は底面から0.06mまでは垂直に立ち上がり、そこからはやや開きながら立ち上がる。

SK-56　D-13・E13に位置する。隅丸長方形を呈する。長径は北側が調査区外のため計測できないが、現状では、1.90m、短径0.59m、深さ0.09mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。西側がSK-72と重複しているが、新旧関係は不明である。　**SK-66**　D-13に位置する。不整な円形を呈し、長径0.42m、短径0.38m、深さ0,15mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。　**SK-67**　D-12に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.49m、短径は南側がSD-35に切られており計測が出来ないが、現状では0.25m、深



第９図　Ⅱ区　遺構配置図（２）





土層説明　ＳＫ−０１〜ＳＫ−１４

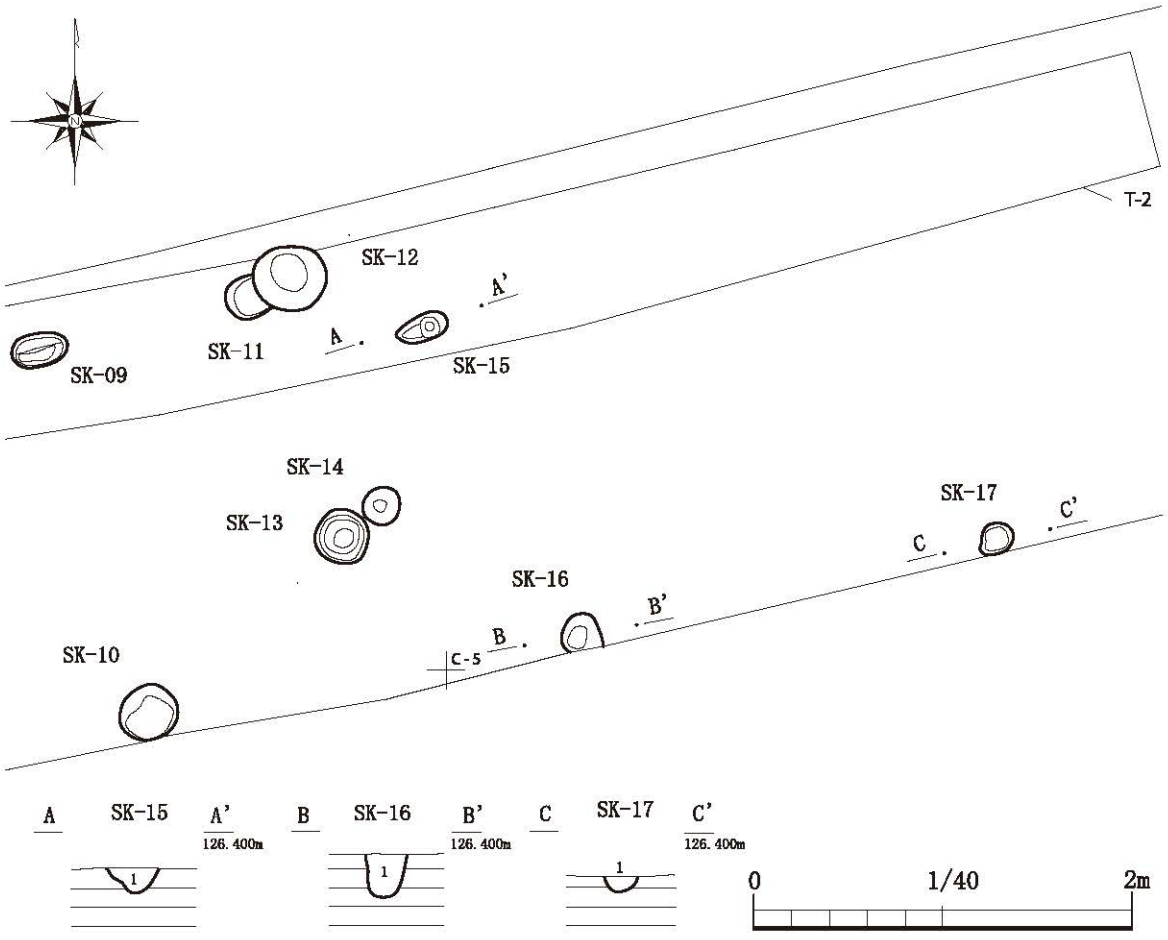
ＳＫ−０１　１層　黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量含む。
ＳＫ−０２　１層　黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量含む。
ＳＫ−０３　１層　黒色土：微細な七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。
ＳＫ−０４　１層　黒色土：七本桜軽石粒を少量含む。
ＳＫ−０５　１層　黒色土：微細な七本桜軽石粒を微量に含む。
ＳＫ−０６　１層　黒色土：七本桜軽石粒を少し含む。
ＳＫ−０７　１層　黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を多く含む。
ＳＫ−０８　１層　黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。
ＳＫ−０９　１層　黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を多く含む。しまり強い。
ＳＫ−１０　１層　黒色土：七本桜軽石、今市軽石粒を少量含む。
ＳＫ−１１　１層　黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。
ＳＫ−１２　１層　黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。
ＳＫ−１３　１層　黒色土：七本桜軽石粒を少量含む。
ＳＫ−１４　１層　黒色土：七本桜軽石粒を少量含む。

第10図　Ⅱ区　遺構実測図（１）ＳＫ−０１〜ＳＫ−１４

さ0.28mを測る。底面は凹凸が見られ、壁はほぼ垂直に立ち上がる。　**SK-68**　D-12に位置する。不整な円形を呈し、長径0.43m、短径0.34m、深さ0.08mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。　**SK-69**　D-12に位置する。不整な円形を呈し、長径0.20m、短径0.14m、深さ0.20mを測る。底面はやや丸みを持ち、壁は垂直に立ち上がる。　**SK-70**　D-12に位置する。不整な形を呈し、長径0.33m、短径0.28m、深さ0.24mを測る。底面から壁にかけて丸みを持って立ち上がる。　**SK-71**　D-12に位置する。不整な円形を呈し、長径0.23m、短径0.19m、深さ0.14mを測る。底面から壁にかけて丸みを持って立ち上がる。　**SK-72**　D-13に位置する。南側をSD-35に切られているが、不整な円形を呈すると思われる。計測可能な長径0.48m、深さ0.41mを測る。南側の底面から約0.30mまでは垂直に立ち上がるが、そこからは開きながら立ち上がる。

SK-57・58・60・61・62・63・64・65　（第9図・第19図）

SK-57a　E-13に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.45m、短径0.40m、深さ0.56mを測る。西側がSK-57bと重複しており、SK-57aが新しい。底面は丸みを持ち、底面から約0.03mの位置に段があり、壁は



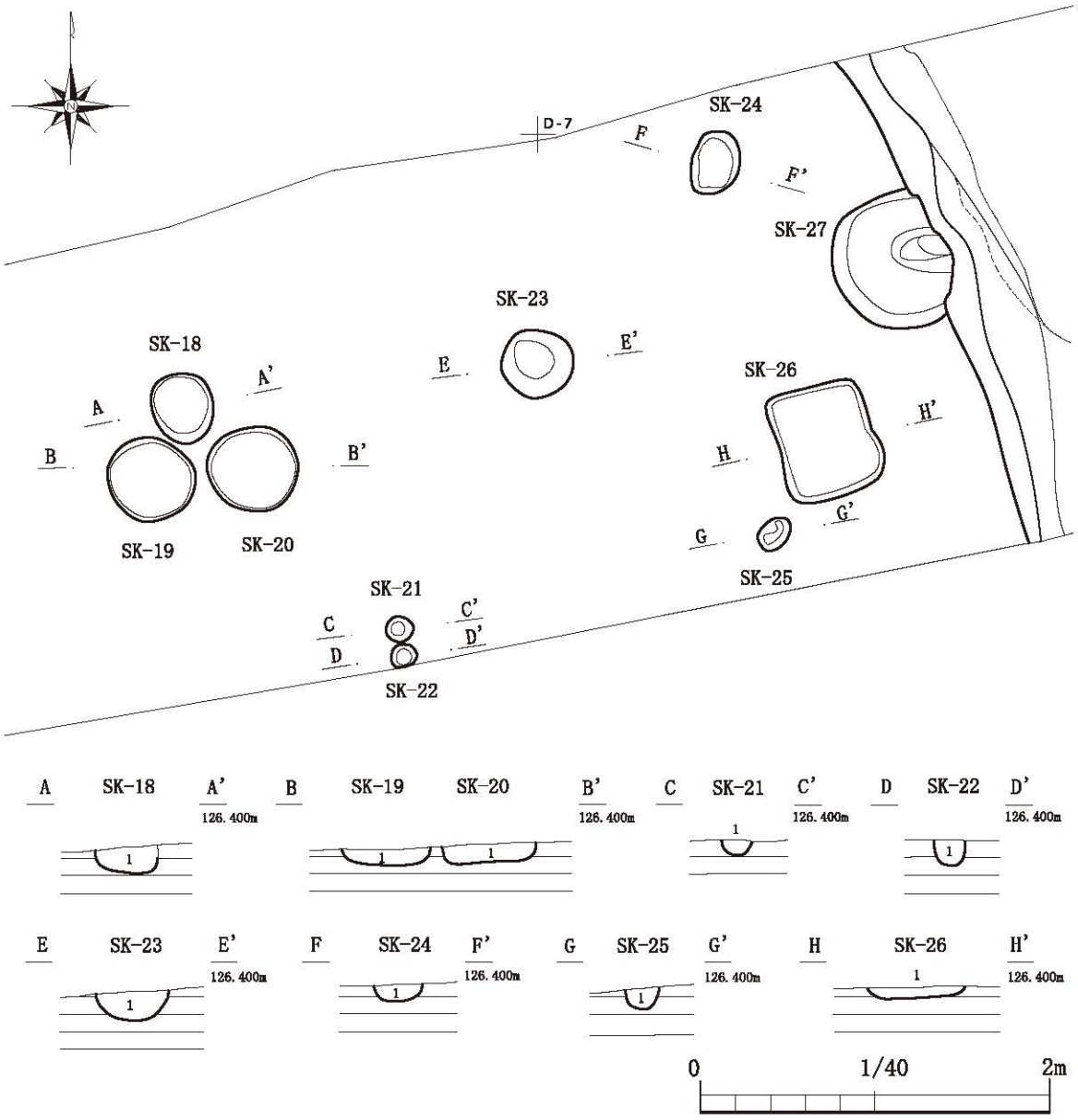
土層説明　ＳＫ−０１５～ＳＫ−０１７

ＳＫ−１５　１層　黒色土：七本桜軽石粒を多く含む。

ＳＫ−１６　１層　黒色土：七本桜軽石粒を少量含む。

ＳＫ−１７　１層　黒色土：七本桜軽石粒を少量含む。

第11図　Ⅱ区　遺構実測図（２）ＳＫ−０１５～ＳＫ−０１７



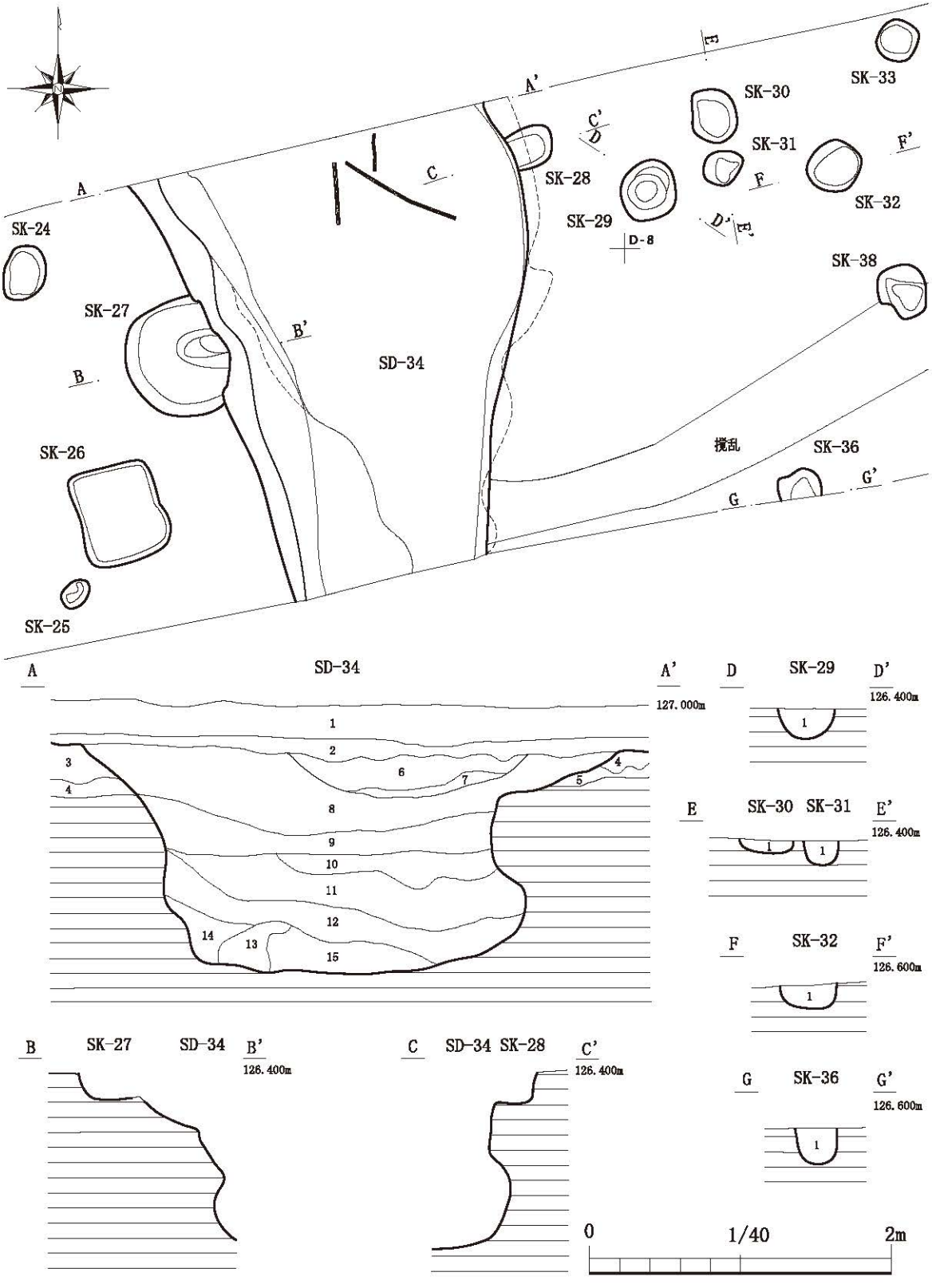
土層説明　ＳＫ－１８～ＳＫ－２６

ＳＫ－１８　１層 黒色土：七本桜軽石粒を若干含む。土器片を含む。
ＳＫ－１９　１層 黒色土：七本桜軽石粒を若干含む。
ＳＫ－２０　１層 黒色土：七本桜軽石粒を若干含む。
ＳＫ－２１　１層 黒色土：七本桜軽石粒を若干含む。
ＳＫ－２２　１層 黒色土：七本桜軽石粒を若干含む。
ＳＫ－２３　１層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒をやや多く含む。
ＳＫ－２４　１層 黒色土：今市軽石粒を若干含む。しまり強い。
ＳＫ－２５　１層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を若干含む。
ＳＫ－２６　１層 黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。

土層説明　ＳＤ－３４（第13図）

ＳＤ－３４　１層 黒色土：砂、礫を多量に含む。（現表土層）
２層 茶褐色土：小礫、今市軽石を少量含む。
３層 茶褐色土：七本桜軽石、今市軽石を微量に含む。
４層 黒色土：七本桜軽石、今市軽石を微量に含む。（旧表土）
５層 赤褐色土：七本桜軽石、今市軽石を含む。
６層 黒褐色土：七本桜軽石を少し、今市軽石（こぶし大・6～7㎜）を多く含む。
７層 暗灰褐色土：今市軽石（6～7㎜）を微量に含む。
８層 明灰褐色土：七本桜軽石粒（4～5㎜）、今市軽石粒（6～7㎜）を微量に含む。
９層 暗灰褐色土：砂粒、今市軽石粒を多量に、砂粒は縞状に含む。
１０層 暗灰褐色土：微砂粒を全面に含む。
１１層 暗灰褐色土：部分的に褐色土を含む。
１２層 明灰褐色土：砂粒、褐色土が層状に堆積。
１３層 黄褐色：ロームブロック。西側壁の崩落か。
１４層 灰褐色土：ロームブロック（1㎝大）を多量に含む。
１５層 暗灰褐色土：粘土に近い。底面は粘土化している。

第12図　Ⅱ区　遺構実測図（３）SK－018～SK－26



土層説明　ＳＫ－２７～ＳＫ－３２・ＳＤ－３４・ＳＫ－３６

ＳＫ－２９　１層　黒色土：混入物なし。

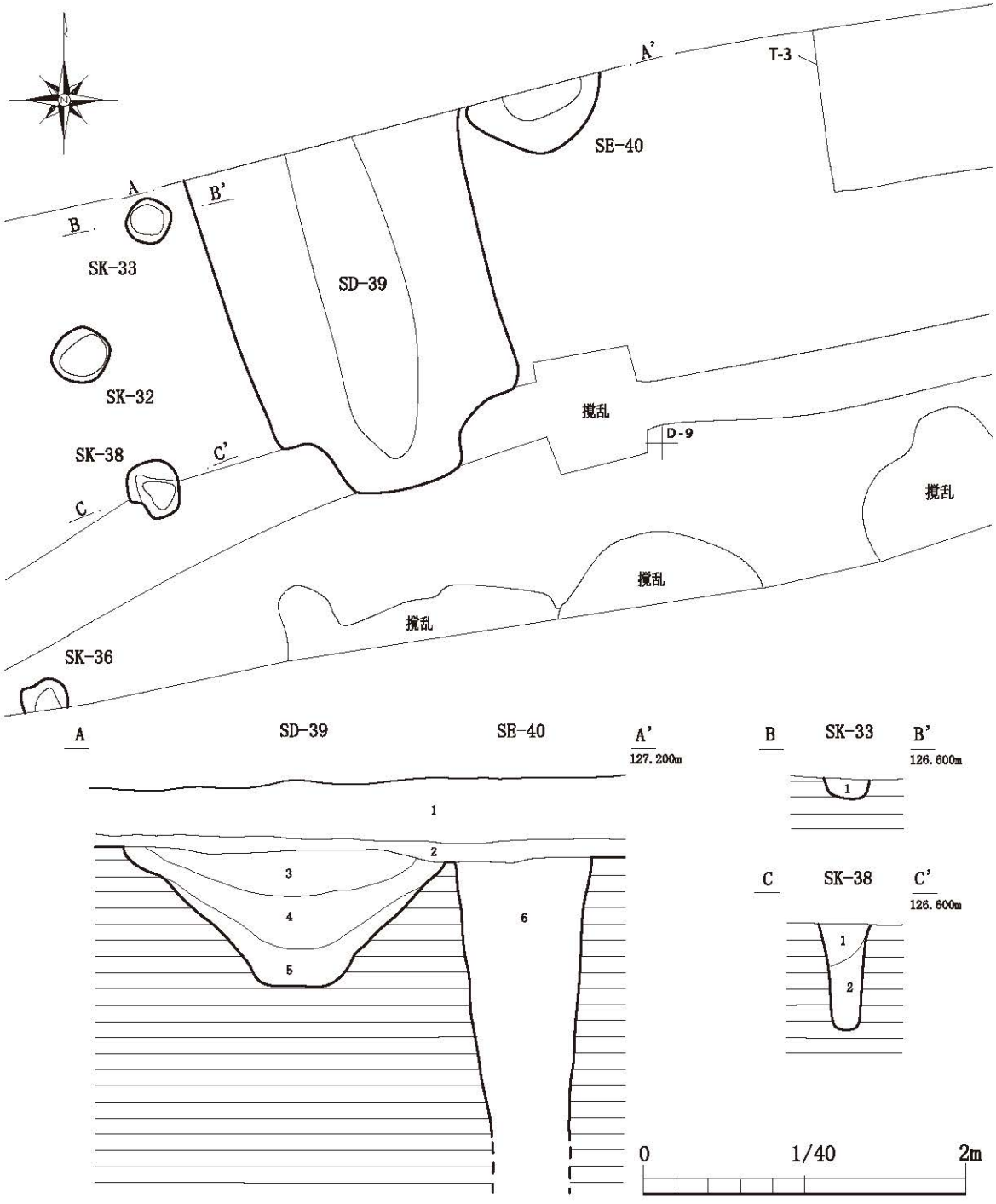
ＳＫ－３０　１層　黒褐色土：今市軽石粒を微量に含む。

ＳＫ－３１　１層　黒褐色土：今市軽石粒を微量に含む。

ＳＫ－３２　１層　黒褐色土：白色粒子を少し、今市軽石粒を微量に含む。

ＳＫ－３６　１層　黒褐色土：七本桜軽石粒を微量に含む。

第13図　Ⅱ区　遺構実測図（４）SK-27～SK-32・SD-34・SK-36



土層説明　ＳＫ－３３・ＳＤ－３９・ＳＥ－４０

ＳＫ－３３　１層　黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。

ＳＫ－３８　１層　黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。

　　２層　明黒褐色土：今市軽石粒子を多量に含む。

ＳＤ－３９　１層　黒色土：砂、礫を多量に含む。（現表土）

　　２層　茶褐色土：小礫、今市軽石粒を少量含む。

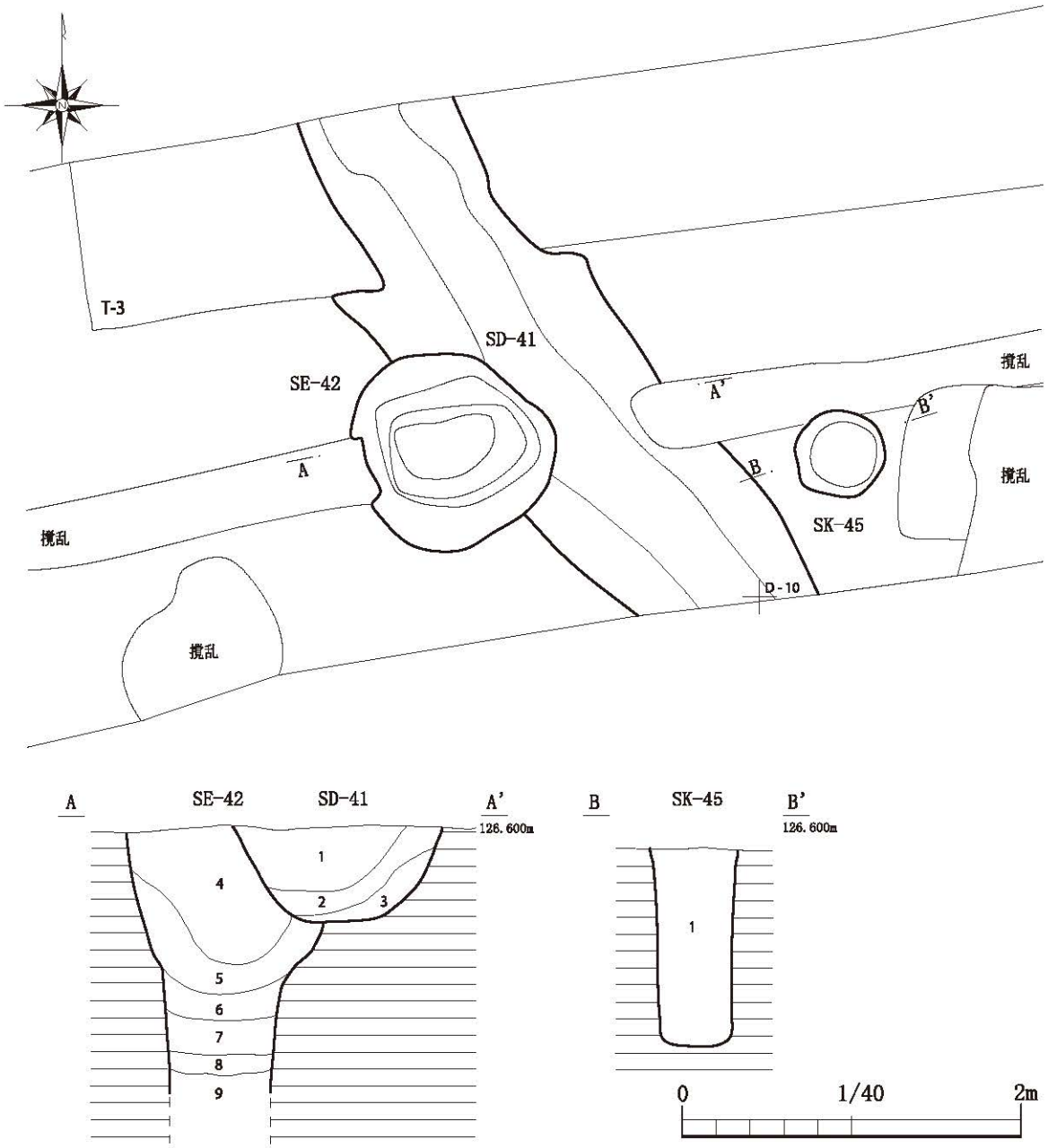
　　３層　明黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を多く含む。

　　４層　黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少し含む。

　　５層　明黒褐色土：今市軽石粒（4～5㎜）を多く含む。

ＳＥ－４０　６層　暗色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量含むきめ細かい土層。しまり強く粘性は欠ける。

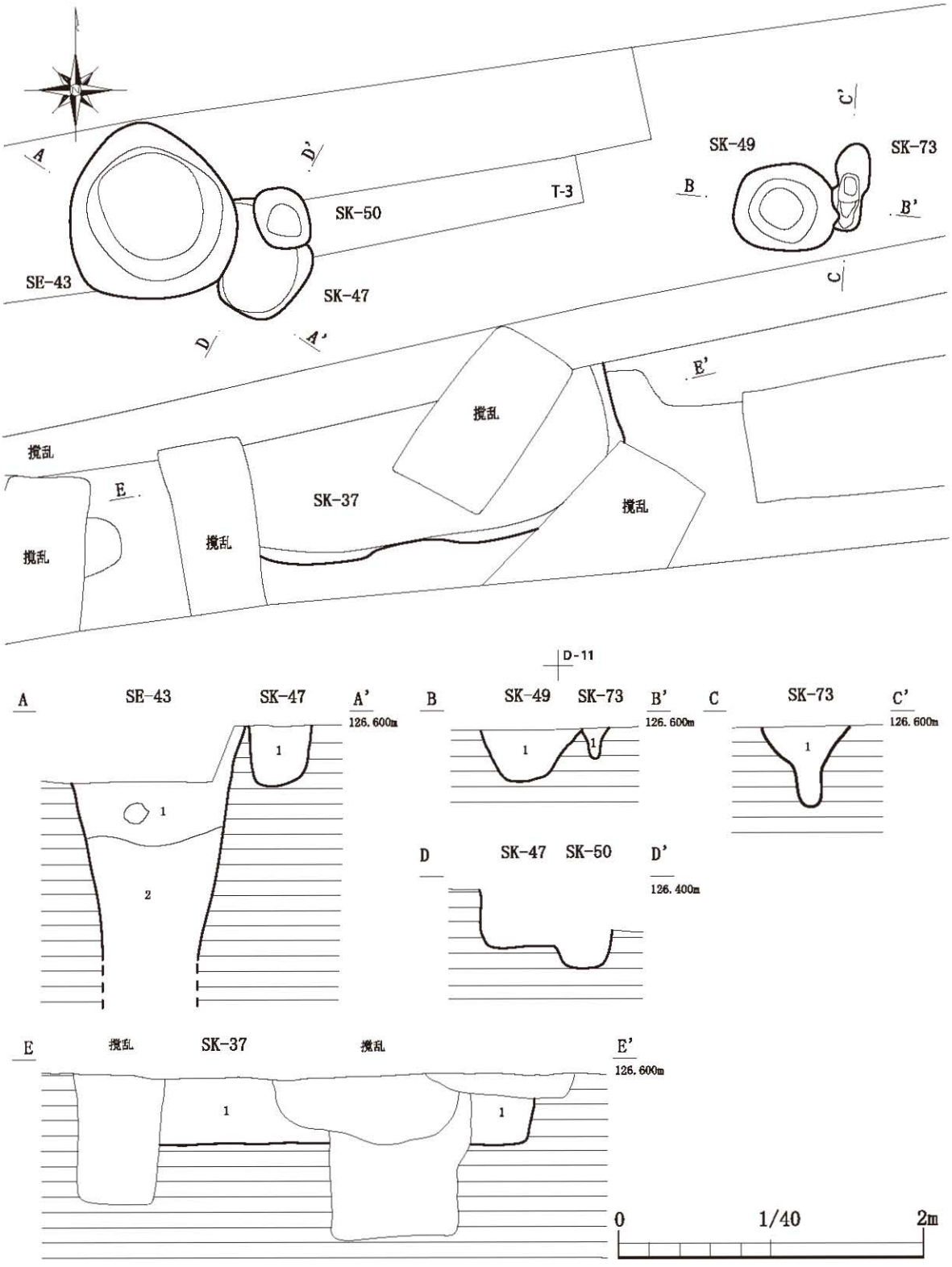
第14図　Ⅱ区　遺構実測図（５）SK-33・SD-39・SE-40



土層説明　ＳＤ－４１・ＳＥ－４２・ＳＫ－４５

ＳＤ－４１　１層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒をやや多く含む。
２層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。
３層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を多く、今市軽石ブロックを若干含む。
ＳＥ－４２　４層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少し、微細な白色粘土をしみ状に含む。
５層 黒褐色土：七本桜軽石粒、白色粘土を若干、今市軽石粒を多量に若干含む。粘性が強い。
６層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒、白色粘土を少し含む。しまり無く柔らかい。
７層 黒色土：白色粘土を多量に含む。しまり無く柔らかい。
８層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒、白色粘土を少し含む。しまり無く柔らかい。
９層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少し含む。しまり無く柔らかい。。
ＳＫ－４５　１層 黒褐色土：七本桜軽石粒（6～7㎜）、今市軽石粒を多量に含む。底面にコブシ大の黄褐色粘土ブロックあり。粘性無く、ボソボソでしまり無し。

第15図　Ⅱ区　遺構実測図（６）SD-41・SE-42・SK-45



土層説明　ＳＫ－３７・ＳＥ－４３・ＳＫ－４７

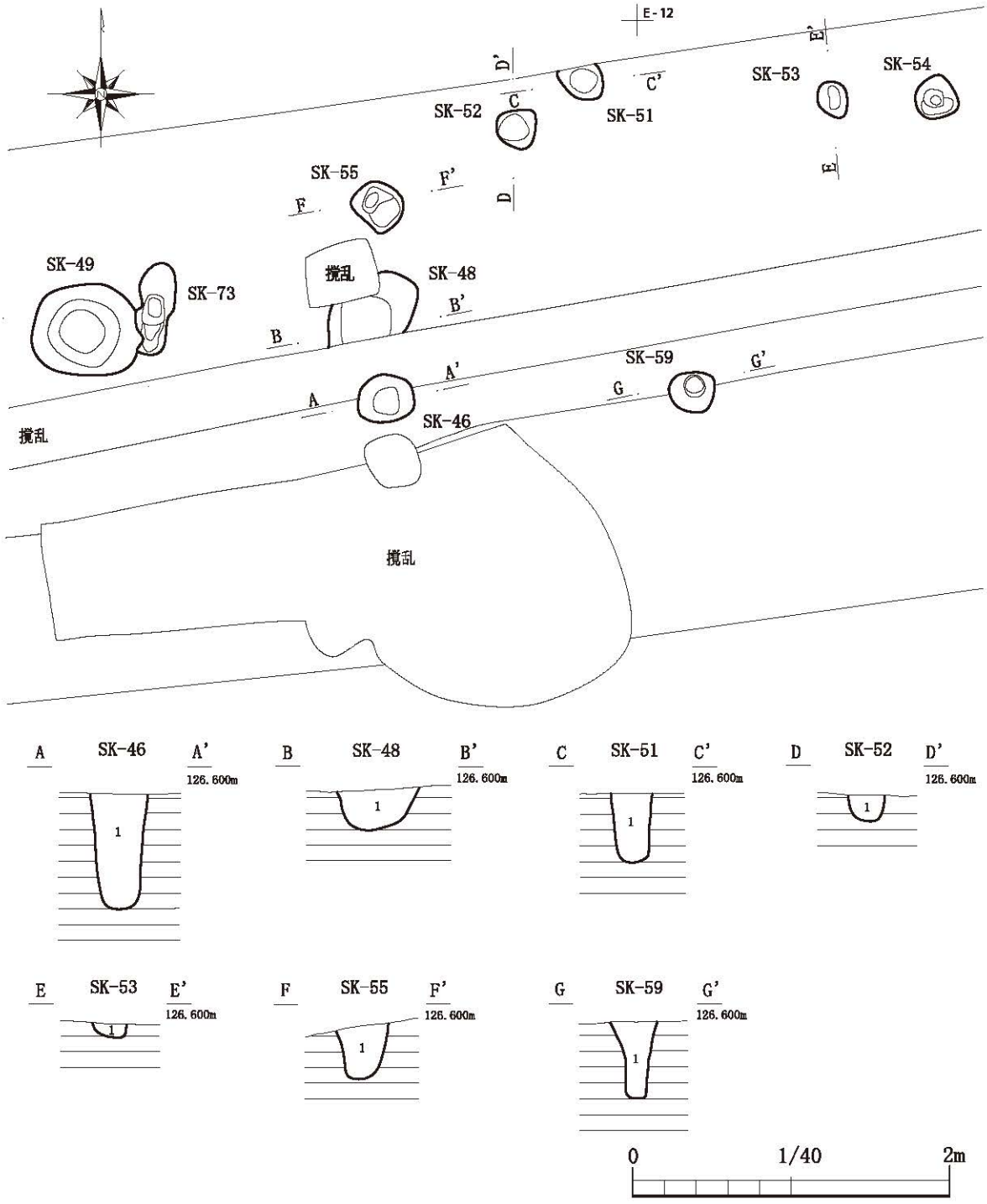
ＳＫ－３７　１層　黒褐色土：七本桜軽石粒を少量含む。

ＳＥ－４３　１層　黒色土：１cm 大の七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量、黒灰色粘土、炭化物粒を微量に含む。

２層　暗褐色土：七本桜軽石粒（1～5 cm）、今市軽石粒、黄白色粘土を少量含む。粘性やや強い。

ＳＫ－４７　１層　黒色土：七本桜軽石粒（1 cm大）のを微量、今市軽石粒を少量含む。

第16図　Ⅱ区　遺構実測図（７）SK-37・SE-43・SK-47・SK-49・SK-73



土層説明　ＳＫ－４９・ＳＫ－７３（第14図）

ＳＫ－４９　１層　黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量、ブロック状（1～2cm大）の七本桜軽石、今市軽石を微量に含む。

ＳＫ－７３　１層　黒色土：七本桜軽石粒を微量、今市軽石粒を少量含む。

土層説明　ＳＫ－４６・４８・５１～５３・５５・５９

ＳＫ－４６　１層　黒褐色土：今市軽石粒（6～7㎜）を多量に含む。

ＳＫ－４８　１層　黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少し含む。

ＳＫ－５１　１層　黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少し含む。

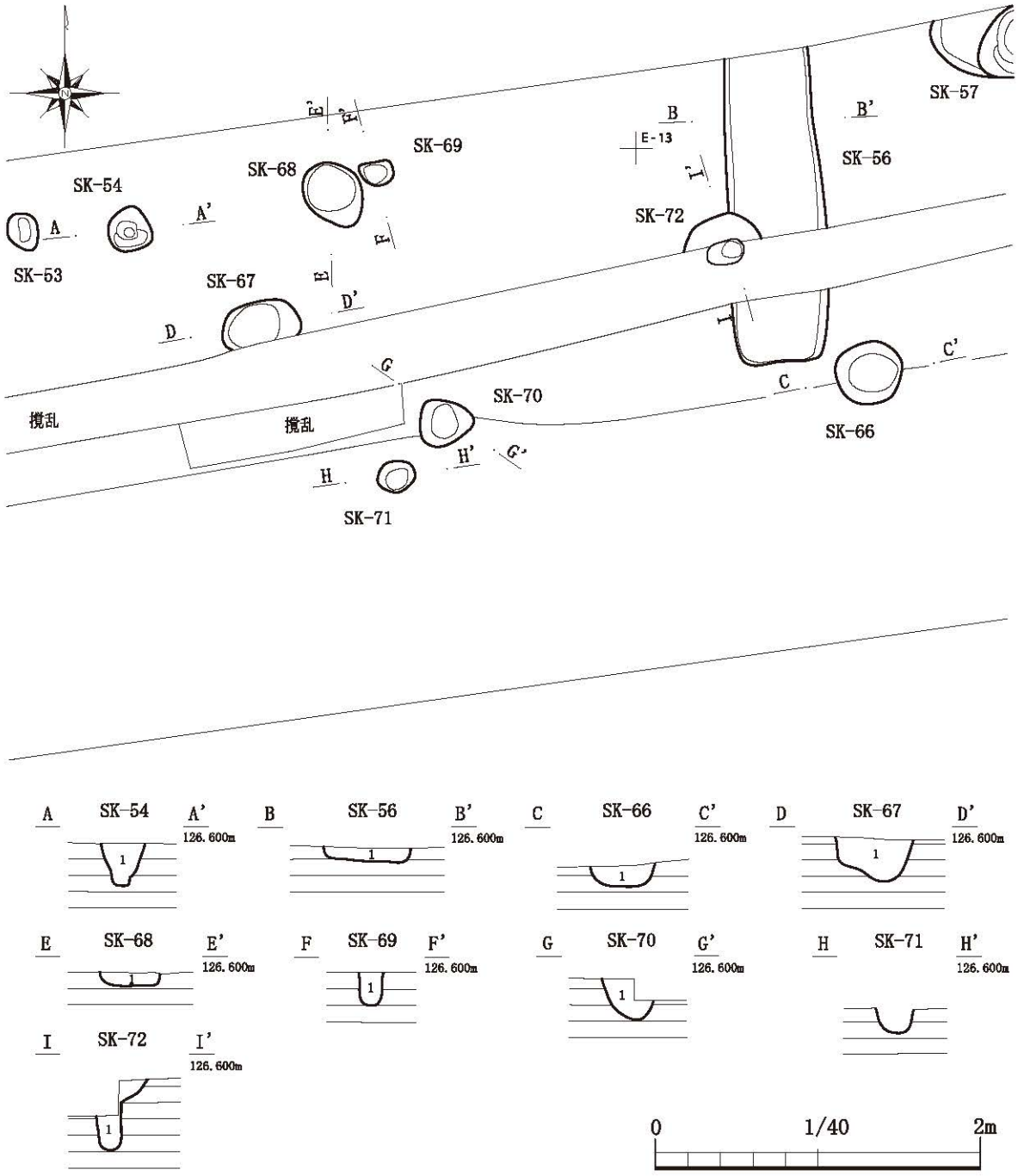
ＳＫ－５２　１層　黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。

ＳＫ－５３　１層　黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。

ＳＫ－５５　１層　黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少し含む。

ＳＫ－５９　１層　黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量含む。

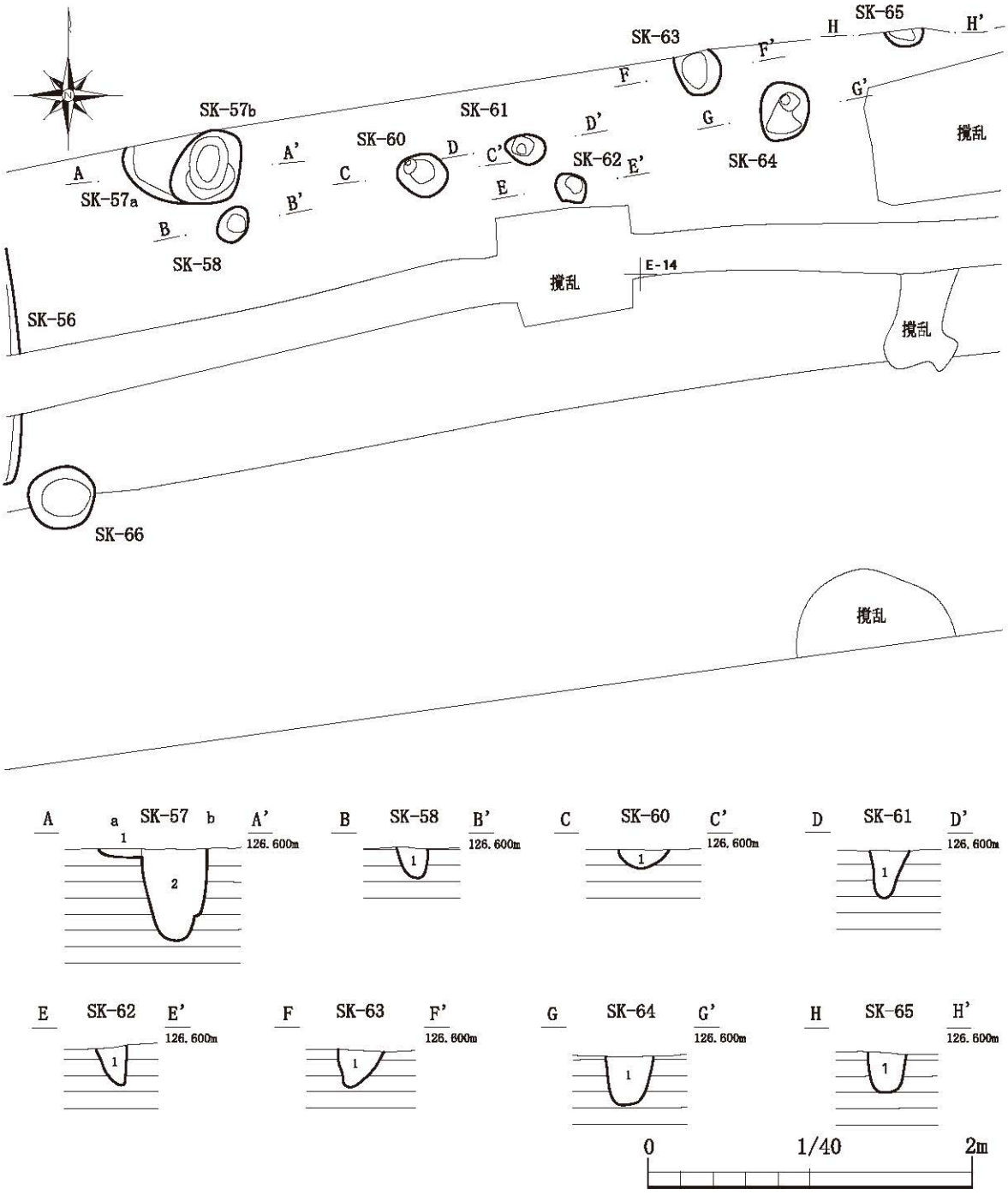
第17図　Ⅱ区　遺構実測図（８）SK-46・48・51～53・55・59



土層説明　ＳＫ−５４・５６・６６〜７２

ＳＫ−５４　１層 黒褐色土：七本桜軽石粒を微量、今市軽石粒を少量含む。
ＳＫ−５６　１層 黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。
ＳＫ−６６　１層 黒褐色土：小礫を多く、今市軽石粒を少し含む。
ＳＫ−６７　１層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少し含む。
ＳＫ−６８　１層 黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。
ＳＫ−６９　１層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量含む。
ＳＫ−７０　１層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量含む。
ＳＫ−７２　１層 黒灰色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。

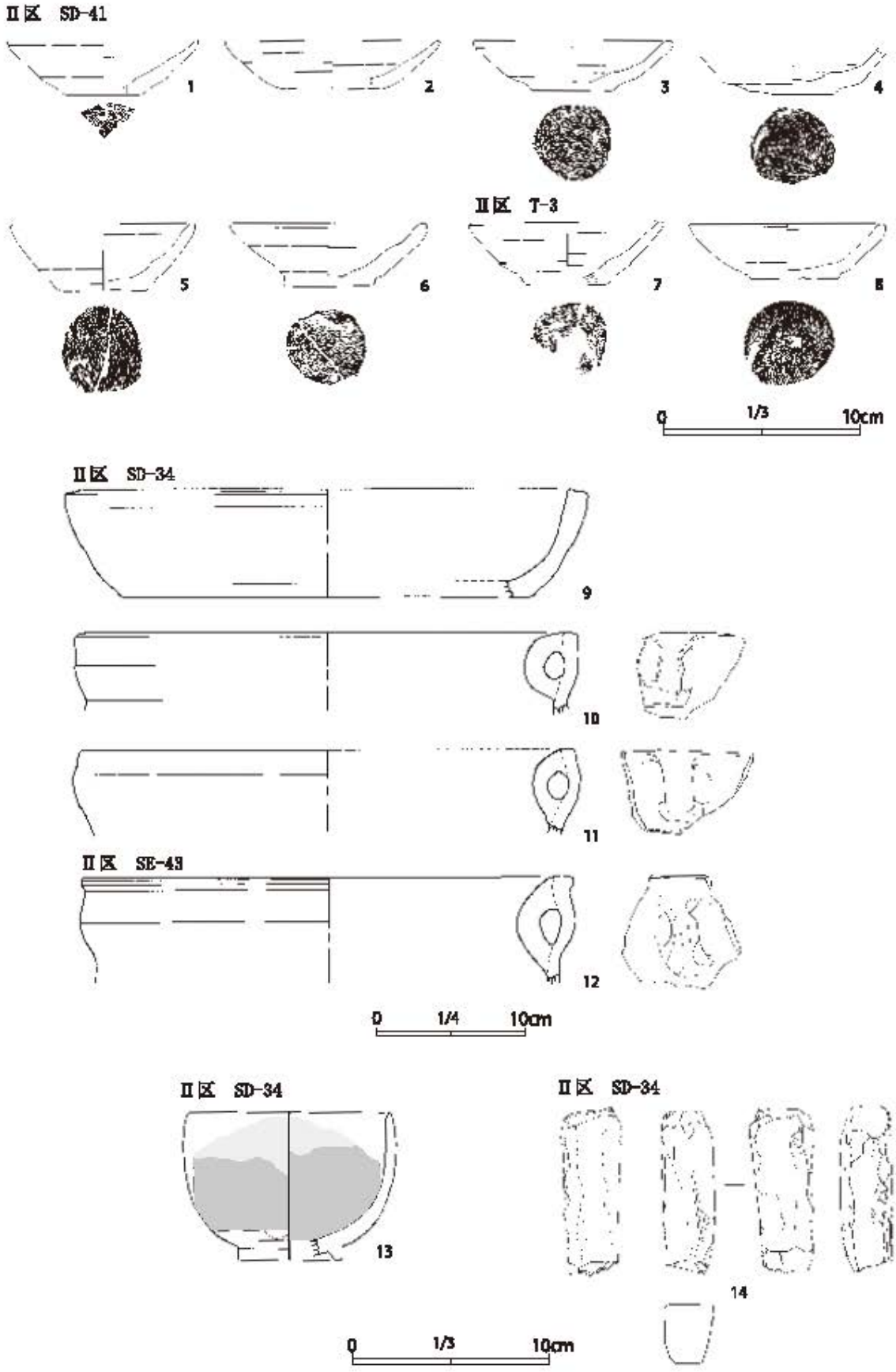
第18図　Ⅱ区　遺構実測図（９）SK-54・56・66〜72



土層説明　ＳＫ－５７・５８・６０～６５

ＳＫ－５７　１層 黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を微量に含む。
　　２層 黒褐色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少し含む。
ＳＫ－５８　１層 黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。
ＳＫ－６０　１層 黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。
ＳＫ－６１　１層 黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。
ＳＫ－６２　１層 黒色土：七本桜軽石粒を微量に含む。
ＳＫ－６３　１層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量含む。
ＳＫ－６４　１層 黒色土：七本桜軽石粒を微量に、今市軽石粒、ブロックを少量含む。
ＳＫ－６５　１層 黒色土：七本桜軽石粒、今市軽石粒を少量含む。

第19図　Ⅱ区　遺構実測図（10）　SK-57・58・60～65



第20図　出土遺物実測図

ほぼ垂直に立ち上がる。　**SK-57b**　E-13に位置する。不整な楕円形を呈するが、北側が調査区外で東側がSK-57aと重複していおり、長径、短径ともに計測は出来ない。深さ0.56mを測る。底面は平坦で、壁は開きながら立ち上がる。　**SK-58**　E-13に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.24m、短径0.18m、深さ0.18mを測る。底面から壁にかけて丸みを持って立ち上がる。　**SK-60**　E-13に位置する。不整な円形を呈し、長径0.32m、短径0.27m、深さ0.12mを測る。底面から壁にかけて丸みを持って立ち上がる。　**SK-61**　E-13に位置する。不整な楕円形を呈し、長径0.26m、短径0.19m、深さ0.29mを測る。底面から壁にかけて丸みを持って、やや開きながら立ち上がる。　**SK-62**　E-13に位置する。不整形を呈し、長径0.23m、短径0.18m、深さ0.26mを測る。底面は狭く、壁は開きながら立ち上がる。　**SK-63**　E-14に位置する。不整な円形を呈し、北側が調査区外のため長径は計測できないが、現状では0.27m、短径0.26m、深さ0.20mを測る。底面は狭く、壁は開きながら立ち上がる。　**SK-64**　E-14に位置する。不整な円形を呈し、長径0.37m、短径0.30m、深さ0.30mを測る。底面は平坦で、壁は若干開きながら立ち上がる。　**SK-65**　E-14に位置する。北側が調査区外のため、形状は不明であるが、不整な円形方形を呈し、現状での幅0.24m、深さ0.23mを測る。底面は平坦で、壁は若干開きながら立ち上がる。

出土遺物　出土遺物はかわらけ８点、内耳土器4点、陶器1点、砥石1点を図示することができた。かわらけは、SD-41から出土したものが6点で、他2点は確認調査の際にT-3の溝から出土している（第5図）。T-3の位置はⅡ区SD-41、SE-43と重なり、溝であることからSD-41から出土したものと考えられる。その他の遺物はいずれもSD-34から出土している。

第２表　出土遺物観察表

No.	器　種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色　調	胎　土	焼　成	出土遺構	備　考
1	かわらけ	口径　9.4 器高　2.9 底径　(4.0)	体部が若干内湾気味に立ち上がる。	ロクロ整形、底部内面ナデ、底部外面回転ヘラ切り。	乳白色：外面一部黒色	輝石、小石	良　好	SD-41	1/4残
2	かわらけ	口径　10.3 器高　2.3 底径　(4.8)	体部が若干内湾気味に立ち上がる。	ロクロ整形、底部内面ナデ。	乳白色	輝石、小石	良　好	SD-41	1/5残
3	かわらけ	口径　9.5 器高　2.4 底径　3.8	体部が若干内湾気味に立ち上がる。	ロクロ整形、底部内面ナデ、底部外面回転ヘラ切り。	乳白色：外面一部底部から体部黒色	輝石、小石	良　好	SD-41	3/4残
4	かわらけ	口径　- 器高　- 底径　4.2		ロクロ整形、底部内面ナデ、底部外面回転ヘラ切り。	乳白色：内面褐色	輝石、小石	良　好	SD-41	1/2残
5	かわらけ	口径　8.9 器高　3.2 底径　4.2	体部が若干内湾気味に立ち上がる。	ロクロ整形、底部内面ナデ、底部外面回転ヘラ切り。	乳白色：外面一部黒色	輝石、小石	良　好	SD-41	1/2残
6	かわらけ	口径　9.4 器高　3.0 底径　4.4	体部が若干内湾気味に立ち上がる。	ロクロ整形、底部内面ナデ、底部外面回転ヘラ切り。	乳白色：外面一部黒色	輝石、小石	良　好	SD-41	3/4残
7	かわらけ	口径　9.3 器高　2.9 底径　3.9	体部が若干内湾気味に立ち上がる。	ロクロ整形、底部内面ナデ、底部外面回転ヘラ切り。	乳白色	輝石、小石	良　好	SD-41	1/4残
8	かわらけ	口径　9.4 器高　2.6 底径　4.2	体部が若干内湾気味に立ち上がる。	ロクロ整形、底部内面ナデ、底部外面回転ヘラ切り。	乳白色	輝石、小石	良　好	T-3	口縁部一部欠損
13	陶　器	口径　3.8 器高　5.5 底径　3.9	体部は底部から丸みを持ってほぼ垂直に立ち上がる。	ロクロ整形	口縁から体部灰色、体部オリーブ：内面オリーブ	砂粒	良　好	T-3	1/3残

No.	器　種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	材　質	色　調	出土遺構	残存率	備　考
14	砥　石	8.3	(最大) 2.7 (最小) 1.5	3.3	114.0ｇ	凝灰岩	黒褐色	SD-34	端部欠損	一面のみ使用

第４章　調査の成果

薬師堂遺跡の発掘調査で出土した遺物のうち、図示できたものは14点である。このうち図示できたかわらけ８点についてのべたい。

かわらけは、素焼きの皿状の焼き物で、一般に「土師質土器」「土師器皿」「かわらけ」と呼称されている。用途としては、酒を飲む器、神仏に供える器として、さらには灯明皿として利用されており、中世以降の遺跡から普遍的に出土する。栃木県内においてかわらけを出土している遺跡としては、足利市の法界寺跡（13世紀中～15世紀前）、壬生町中の内遺跡（15世紀～16世紀）、岩舟町赤塚遺跡（16世紀）、宇都宮市石那田館跡（16世紀）、上三川町大町遺跡（16世紀末）、小山市金山遺跡（17世紀）、小山市横倉宮ノ内遺跡（15世紀～17世紀代）、宇都宮市飛山城址（12世紀～17世紀後半）等があり、それぞれの遺跡において年代観も提示されている。また、足利市の法界寺跡、小山市横倉宮ノ内遺跡では、報告書において編年が試みられ、栃木県内における中世考古学の研究は、県南部の小山地域、足利地域で進展しつつある。さらに、県央地域については、今平利幸氏により飛山城の編年が試みられている。しかし、これらのかわらけの出土例は中世が多く、編年も中世が主体であり、近世については出土例が少なく、編年も進んでいないのが現状である。かわらけは、在地色が強くその流通圏も限定されていると考えられており、県央部の地域と県南部の小山地域や足利地域では様相が若干異なる。薬師堂遺跡のかわらけについて年代を考える場合、薬師堂遺跡が所在する高根沢町太田地内から近い位置にある飛山城跡の今平氏の編年を参考に考えて見たい。

今平氏の編年によると薬師堂遺跡のかわらけはロクロ成形であることから、B類になる。また、口径、底径、器高の各かわらけの法量を数式化し、成形や体部の特徴を考慮して法量に当てはめてみると、５は1aに、その他は1bに分類できる。このことから、薬師堂遺跡のかわらけは、このB類1a、1bということになる。また、小型化はしていないことなどから、今平氏の７期に分けた編年によると５期から６期にあたると考えられ、15世紀中葉から16世紀代前半に位置づけられる。

薬師堂遺跡は東西約0.3km、南北約1.0kmと広範囲の遺跡であり、時代も縄文時代から中世にかけて幅広いものである。今回の調査の成果として、遺跡の中で一部の範囲の調査ではあったが、SD-41でまとまってかわらけが出土し、時期の位置づけもすることができた。薬師堂遺跡の性格を知る上で手がかりとなった。

参考文献

大澤伸啓　1995『法界寺発掘調査概要』足利市教育委員会

安藤美保　2001『谷向・国谷馬場・中の内・総宮・鍋小路』（財）とちぎ生涯学習文化財団

岩淵一夫　1981『赤塚遺跡』栃木県教育委員会

峰岸純夫・橋本澄朗ほか　1975『石那田館跡』栃木県教育委員会

秋元陽光　1985『大町遺跡』上三川町教育委員会

津野　仁　1997『金山遺跡Ⅴ』栃木県教育委員会

齋藤　弘　1995『横倉宮の内遺跡』栃木県教育委員会

今平利幸　1996『飛山城跡第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ次確認調査概要』宇都宮市教育委員会

今平利幸　2001「下野における中世土師器皿について」『栃木県考古学会誌』栃木県考古学会

写真図版

兼師堂遺跡航空写真（南東から）

図版二　航空写真

薬師堂遺跡Ⅱ・Ⅲ区航空写真（南から）

薬師堂遺跡Ⅱ・Ⅲ区航空写真（真上から）

SK - 01　セクション　（南から）

SK - 02　セクション　（南から）

SK - 03　セクション　（南から）

SK - 05　セクション　（南から）

SK - 07　セクション　（南から）

SK - 01 ～ 07　完掘　（南東から）

Ⅱ区作業風景　（西から）

Ⅱ区作業風景　（西から）

SK－08　セクション　（南から）

SK－09　セクション　（南から）

SK－10　セクション　（南から）

SK－11・12　セクション　（南東から）

SK－13・14　セクション　（南東から）

SK－15　セクション　（南東から）

SK－1～16　完掘　（西から）

SK－8～17　完掘　（南西から）

SK－18・19・20　セクション　（南から）

SK－18・19・20　完掘　（南から）

SK－23　セクション　（南から）

SK－24　セクション　（南から）

SK－18～20　完掘　（東から）

SK－25・26　完掘　（南から）

SK－23～27・SD－34　完掘　（南から）

SD－34・SK－27　セクション　（南から）

SK-28～33、SD-34・35、SK-36～38、SD-39、SE-40
完掘　（南西から）

SK－28～33　完掘　（北西から）

SK－27～28・SD－34　完掘　（南から）

SK－27～28・SD－34　完掘　（南から）

SD－34　セクション　（南から）

SK－37　完掘　（南西から）

SD－39　セクション　（南から）

SD－39・SE－40　完掘　（南から）

SD－39　作業風景　（西から）

SD－40　完掘　（西から）

SD－39　完掘　（西から）

SD－39　完掘　（東から）

SD－41、SE－42　セクション　（南から）

SD－41　遺物出土状況　（南から）

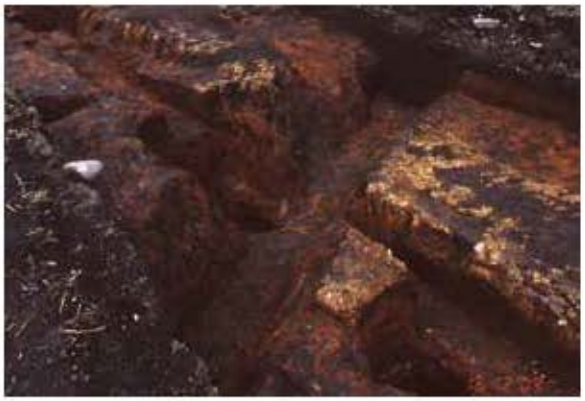
SE－42　完掘　（東から）

SD－41、SE－42　完掘　（東から）

SE－43　セクション　（北東から）

SE－43、SK－47・50　完掘　（北から）

SK－45　完掘　（北東から）



SD－41、SE－42、SK－45　完掘　（南東から）

SK－46・48・55　完掘　（北から）

SK－46～52・55・73　完掘　（東から）

SK－49・73　セクション　（南西から）

SK－49・73　完掘　（北から）

SK－51・52 完掘　（南東から）

SK－56　完掘　（西から）

SK－57・58　完掘　（東から）

SK－59　完掘　（南東から）

SK－60・61・62 完掘　（東から）

SK－63・64・65 完掘　（南から）

SK-53・54・67・69・68　完掘（北西から）

SK－70・71 完掘　（南東から）

図版十　調査Ⅱ区・遺構（八）　調査Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区　作業風景

SK-56～58・60・66・72　完掘　（西から）

Ⅰ区・Ⅱ区全景　（東から）

Ⅰ区　遺構確認状況　（西から）

Ⅰ区　遺構確認状況　（東から）

Ⅲ区　作業風景　（南西から）

Ⅲ区　遺構確認状況　（北東から）

Ⅱ区　遺構測量風景　（西から）

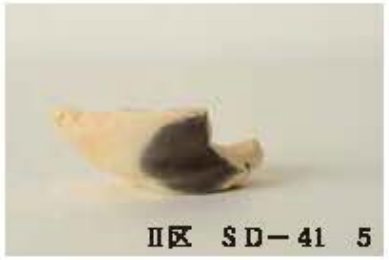
航空写真撮影

II区　SD－41　1

II区　SD－41　2

II区　SD－41　3

II区　SD－41　4


II区　SD－41　5

II区　SD－41　6

T3　7

T3　8

Ⅱ区　SD－34　9

Ⅱ区　S－34　10

Ⅱ区　S－34　11

Ⅱ区　SD－35

Ⅱ区　SK－43　12

Ⅱ区　SD－34　14

薬師堂遺跡周辺道路整備状況（西から・奥が薬師堂遺跡）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	やくしどういせき
書　　名	薬師堂遺跡
副 書 名	安全な道づくり事業費（補助）一般県道杉山石末線太田東工区に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第367集
編 著 者 名	植木茂雄
編 集 機 関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団　埋蔵文化財センター
所 在 地	〒329−0418　栃木県下野市紫474番地　TEL 0285−44−8441
発 行 機 関	栃木県教育委員会　公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発 行 年 月 日	西暦　2014年3月25日　（平成26年3月25日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
やくしどういせき 薬師堂遺跡	たかねざわまち 高根沢町 おおた 太田	09215	2754	36° 37′ 31″	140° 2′ 41″	20091008～ 20091225	490	道路整備事業

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
薬師堂遺跡	集 落	中世	土坑12基 井戸4本 溝3条 小穴53	土師質土器 内耳土器 陶器 砥石	

要 約	遺跡の範囲は井沼川の右岸、東西約300m、南北約1,000mの範囲で遺物の散布かが見られ、遺跡の南端には直径約21mの塚原古墳が所在している。縄文時代、古墳時代（後期）、奈良・平安時代、中世、近世にかけて幅広い時代の遺跡である。 今回の調査では、遺跡の北側の一部ではあるが、中世の遺構・遺物の検出が出来、遺跡の一端を知る手がかりとなった。

栃木県埋蔵文化財調査報告第367集

薬師堂遺跡

―安全な道づくり事業費（補助）一般県道杉山石末線太田東工区に伴う埋蔵文化財発掘調査―

発行　栃木県教育委員会

宇都宮市塙田1－1－20

ＴＥＬ　028（623）3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1－8

ＴＥＬ　028（643）1011

平成26年3月25日発行

編集　公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫474番地

ＴＥＬ　0285（44）8441

印刷　下野印刷株式会社

本書は栃木県教育委員会の承認を得て、
（公財）とちぎ未来づくり財団が発行す
るものである。